

秋冬 autumn-winter  
2021

vol.  
28

# 春風新聞

shumpu shimbun



春風社

Shumpu Publishing Co., Ltd.

〒220-0044

横浜市西区紅葉ヶ丘 53

横浜市教育会館 3F

TEL (045)261-3168

FAX (045)261-3169

www.shumpu.com

✉ info@shumpu.com

【図書目録】 哲学・思想・宗教 4 / 文芸評論 5 / 文学・エッセイ 6 / 芸術・音楽・写真 7 / 総記・辞典・事典 7 / 教育 8 / 観光・環境・自然 8 / 言語・心理 9 / 社会・歴史・政治 10  
東洋英和女学院大学社会科学叢書 11 / 横浜市立大学新叢書 11 / 立教大学人文叢書 11 / 人類学 12 / シリーズ来たるべき人類学 12  
【連載】 日々の風 暮らしのなかの哲学 長谷川宏 4 / 翻訳ピンチ! 中条省平 6 / 帰ってきた mini 大河 しりあがり寿 7 / 英文学にデコピン 阿部公彦 8  
コ・プレゼンスの時代へ 吉原直樹 9 / ポストモダンの処方箋 白井聡 10  
【コラム】 自著を語る 11 / 春風接人 12

言葉を以て学びたる者の能く深造自得せし者創世より未だ之れあらざるなり。



絵

ことば

『新井奥達著作集』五卷一八頁  
『おうすいポケット』一四二頁より  
高橋大 (二〇二一年)

# 神秘と無限の 氣息にふれる

『文の風景』  
刊行によせて

中条省平  
(フランス文学者)  
×  
末松裕基  
(教育学者)  
×  
三浦衛  
(春風社代表)

書評エッセイ『文の風景 ときどきマンガ、音楽、映画』(三浦衛著、春風社)の刊行によせて、二〇二一年八月二八日、横浜市教育会館にて、フランス文学者の中条省平氏と教育学者の末松裕基氏をお招きし、春風社代表の三浦衛と鼎談を行いました。その模様の前半をお伝えします(後半は次号にて)。

三浦 『文の風景 ときどきマンガ、音楽、映画』をもとに、いろいろ広げてお話できればと思っています。けなされたり批判されたりして育つ人もいますが、僕は褒められるのが好きで(笑)ずっと来しました。ですので、今日もお二方に褒められて私自身も春風社もさらに育っていきたいなというノリで臨んでいます。まずは、中条先生に口火を切っていただけますか。

中条 私は三浦さんの本は『文の風景』に至るまで全部読んでいますし、特権的な読者として、三浦さんが世に発表していない初期の短編小説も読んでいます。『文の風景』の跋文で、著書それぞれに感想を書いたのですが、さらにあの本の根本をなすテーマを考えたときに、主な柱が三つあると思います。

## III 三浦

中条 一つ目は、「物としての本」です。第一作の『出版は風まかせ』からそのうですが、すべて本にまつわる話から始まっています。けれども、それは紙の本の話であって、デジタルでは絶対にない。紙の本というものに、どれだけ三浦さんが執着し、春風社という会社まで作って紙の本を生産してきたか。そのことに対する強い思いがあるんですね。

そして、単なる本ではなくて、「物としての本」という側面を、どんどん強調していく。三浦さんにとつては、手触りがあって、重さがあったり、何よりもまず、物質であることが重

要なんです。それから、デジタルには絶対ない匂いを発するものもあるんです。三浦さんは本を語るときに、常に装丁を重視するんですけども、それは美術品としての完成を求めるようなものではない。見たとき、手にとつたときに物としての主張を感じさせるような、「実在としての本」というものに執着しています。

それは三浦さんの個人史とも関係しています。三浦さんが本を意識しはじめたのは、夏目漱石の『こころ』を読み終わったときの文庫本の重さとか、事典や辞書を持ったときの手応え、そういう個人的な体験にも遡るものです。先ほど申し上げた本の「匂い」というものは、「マドレーヌを食べてお茶を飲んだときに、自分のかつての幼年期の経験が全部よみがえってきた」というブルースト的な経験に近いものもあるんですが、三浦さんの場合は匂いを介して人間の意識の古層にまで向かっていく。話がすごく壮大になって、ほとんど夢野久作の『ドグラ・マグラ』みたいな話になってしまふ。もちろん妄想だと思っただけで、三浦さんにとつて本は、単なる物質を超えた、進化を遡るほどの力を与えているようなものとして考えられています。しかも三浦さんがすごいのは、本の「物質性」への執着を出版者としての実践に変えてしまうところなんです。つまり、自分が出した詩集などでも、活版印刷にこだわっている。これもけっこうていねいとか完成度の高さを追い求めるものではなく、「手で触つたときにへっこみを感じられる」と

か「ザラザラしている」といった身体的な感覚によつて、本というものを、単なる観念の経験のための道具から、もう一段階違うところに引き上げたり、あるいは引きずり下ろしたりする。そういう「本の物質性」が、三浦さんの主題の最初のものになると思います。

二つ目は、これも近年になって三浦さんがすごく強調していることですが、ふるさと秋田と、秋田の言葉、方言の問題ですね。「秋田に選ばれる」という主題は、『父のふるさと』という本で全面的に展開されたわけですが、近年の三浦さんの秋田への関心とか執着は、特に言葉に集中しているような気がします。

近代的には「意味を伝達するメディアとしての透明な言語」が重視されていますが、三浦さんの言葉は、意味に還元できない、秋田という場所が生きたときの身体、子どもとしての経験と深く結びついています。「鱈」という魚も、「hatahata」と「じゃない」、「hadahada」なんだ」と。理屈を述べる言語と違い、詩の言語は、思いついたことを何でも書くことができるので、「hadahada」というような言葉がボンと出てくる。そういう身体と結びついた方言の問題が、このところ、三浦さんの中で大きなテーマとして浮上してきています。

理屈として一番うまいことを言っているのは、カッシーラーから引用された「言葉というのは精神的なものであると同時に身体的なものである、同時に心でもあり、体でもあるような、それが言語だ」という箇所です(『文の風景』四五二頁、カッシーラー『シンボル形式の哲学 三』)。それは理屈に過ぎないともいえるんですけど、三浦さんが例に挙げておられる三橋美智也の歌声や、活版印刷の手触りを持った本などで言葉に触れると、ある種の身体的な経験としてあり得るような感じがしてくる。

三浦 ありがとうございます。この本は僕がつくつたんですけれど、ほかの方が読んでくださることで、全く別の光を当てられ、何かまたいろいろなことを気づかされます。末松先生、いかがですか。

末松 「物としての」ということは、すごく大事なところなんです。三浦さんや中条先生の本を読んでいるとピンピンくるんです。例えば、中条先生の本には、十四歳くらいの話が必ず出てきます。私は今四十歳で、本をちゃんと自分で買って読み始めたのは二十五歳くらいなんです。ですので、十四歳の中条先生と、今の私は実は一緒くらいの感覚なんです(笑)。私の場合、「とじえね」ではない寂しさをインターネットに感じさせられてきたんだと思います。そこで「物としての本」に出会って、今はある意味、第二成長期なんです。身の本による快楽を、私は今すごく感じています。

Miuraの歩き方  
末松 今回の鼎談に臨むにあたって、私の『文の風景』の読みと思考のプロセスを紙に書いてきました。「今回私がたどったプロセスは、私のように本を読んでこなかった者にとつては大事なことでないか」と思っ

末松裕基氏

三浦衛



たのですが、今回全部通して読んで、立つて朗読してみたら、すごくおもしろい。『鱈 hadahada』の「馬」という詩の「さつきからむこう向きで 草を食んでいる なんの教訓も得られない」とか、『カメレオン』所収の「祖母殺し」とか好きな詩を朗読しながら、そういう読書の楽しさを味わっていました。

### 誠実に、腹を下しながら

こうして「Mirraの歩き方」から、途中「中条の歩き方」も経てもう一回『文の風景』を読もうと思っただけです。三浦さんが、一個の物語について、小さいときの自分と二重に話しているみたいだと書いてある箇所が本書にありました(三三三頁)が、私も結果的にそれをやっついて、そうしながら、本のポイントをとめたり、朗読したいところをチェックしました。そのあとに、事前にゲラでいただいた初読時と完成した本での再読時について、答え合わせのように、線を引いたところにズレがないか突き合わせたり、どういうところで感じ方が変わっているかをメモしました。

「Mirraの歩き方」にも書いたのですが、「この二人にはかなわなない」という感覚があります。中二で「俺は世界征服できる」みたいな思っている子が、強敵にいきなり会って、ちよつと心折れている感じでも「俺は俺で、泥臭くやればいいんじゃないかな」とか思いながらワクワクしている。不思議なことに、今回、お二方の本を読んでいるとき、ジェームス・ブラウンとラモーンズばかり聴いていました。

私が子どものときに見た大人は、不信とか怒りの対象でした。特に高校の時、私は勉強ができません。教えてくれる立場の人に暴力をふるわれた。だから高校の先生は、私にとっては殺す相手なんです。私が教育学をやっているのは、こうした理由があるんです。そうしたら、中条先生は中学時代でしたでしょうか、「リンチした血みどろの校長を引つ立てて警察署に向かう暴徒の一員になったりした」と書いてある(『中条省平は二度死ぬ』清流出版)。中条先生は当時か

ら決して暴力を肯定しているわけではありませんが、「この人は私よりもっと早くやっっているんだ」と知りませんでした。そういうこともリンクしながら、今回の「歩き方」では、「世界に広がる」人についていいな、「おもしろい大人もいっぱいいるんだな」ということがわかってきました。

末松 こういう経緯をたどって読んだ本書の、私なりの三つのポイントをお話しします。

一つ目は、三浦さんはバンクバンドのラモーンズのような、解放の担い手だなと思いました。ラモーンズって下手クソで単調なんです。でも、カッコいい。彼らを見て、楽器が買えない世界中の貧しい子たちがバンドを始めました。

きれいな言葉で書かれているけれど、私はこの本は、「三浦さんの本の性日記だ」と思いました。三浦さん自身が使っている言葉ですが、まず「赤裸々」なんです。あと「赤裸々で、俺も出でく」というのは、私にとってはかなりへビーで、本当に途中しんどくなりました。ラモーンズも覚醒剤をやった、オーバードーズで何人も死ぬんですよ。だから気をつけなさいという。

おもしろくない本だったら途中でやめてしまうのだけれど、この本は続けて何回も何回も読もう、それも今回は「誠実に読みたい」と思いました。「自分でも読書を始めていいんだ」という後押しをこの本を讀んでいて感じたからです。

二つ目は三浦さんの本とのかかわり方で、「二人の自分との対話」がキーワードだと思います。三浦さんは本を読まなかつた時代の自分について繰り返し書いています。出版社の社長さんなら、読んでいなくていいに威張ったりするものですが、読んでいない経験それ自体を楽しんでいるというのが、二重三重に私とも重

なつて、すごくおもしろい。

今回は読むのにすごく時間がかりました。「蒲松齡は親しい友人」と書いていたり、いきなり「アウグスティヌスが隣に来た」とか書いてあるんです。「何言っているんだ、この人は？」と思います。でも次第に、この人の中では本当に隣に来ていたんだ、小さいときの自分自身も含めて、いくつもの人格とこの人は遊んでいるんだということがわかりました。公園での鬼ごっこ一緒で、本気でないと遊びじゃない。それは相手が蒲松齡とか、アウグスティヌスとかでも一緒なんです。

三浦さんはおもちやをずつと探している。ロボットとかミニカーとかじゃなくて、最強の大人のおもちや。だから次から次に、「このおもちやはどうか」と吟味しているんですよ。すごくおもしろい遊び方をされているなと思いました。それが二つ目です。

三つ目ですが、三浦さんは生きることに對して、強い渴望を持たれているのではないかと思います。「生きる」というのがひとつのテーマで、そこに必死に向かっている、歯を食いしばっている。

『父のふるさと』に、馬をバサツと斧で割るシーンがありました。あーというの普通、子どもに見せないし、伝えないのですが、そこには生き物の切実さや、生きることに大変さがある。あとはお父さんが出稼ぎの賃金をもらっていないのに、約束していたラジオを買ってきてくれる。真剣勝負の中で、大人にかかわって

もらってきたのではないのでしょうか。今の三浦さんは、「生きる」の先にある、もしくは「死」が、「勢いで会社を立ち上げた」時期とは違ってみえているのではないのでしょうか。そこでは「まつとうな人間になる」という強い意志や行動が必要だと思

います。そして「行動とは何か」といったときに、三浦さんは読書にかけている。読んでいて、つきあわさ

れている。具体的に、「桑の葉をこしこしと食む」とありますが、この「しこしこ」という言葉なんか三浦さんらしいなと思いました。じゃあ、この人は何を食もうとしているのか。私の三浦さんのイメージは、ギラギラした目と、豪快な笑顔なんです。この人は笑いながら、何を食んでいるのかという、私の中では葉っぱの印象では合わない。この人は生の魂を食べようとしている。

### 身体性、笑い

三浦 中条先生の話で僕の体にいちばん来るのは「身体性」です。僕の演劇の恩師であり、以前勤めていた大空社の時代、もつと言うと、僕が横須賀で教師をやっていたころからいろいろつき合ひのあった人に竹内敏晴(一九二五—二〇〇九)という演出家がいいます。彼の言葉に、「からだ」の問題に手をつけることは、地獄のカマのフタを開けるようなものだ(『ことばが劈かれるとき』ちくま文庫)があります。身体性というのは、哲学的にもやつと今いろいろ議論されてきてはいますけれども、まだまだ始まったばかりではないかと思つています。

身体性というときに、小学校のときの体育の授業でのサッカーのことを思い出します。みんな小学生でボールを蹴りたいから、だれもゴールキーパーをやらない。学級委員長だった僕は、仕方なくゴールキーパーをやることにしました。

やる前は僕だつてやりたくないんだけれども、いざやってみると、蹴られたボールをたまに取って止めた。それでまたゲームが進行する、また来る、止める。それを何回か繰り返した。相手も子どもなのでまじつとまじつと蹴ってくるから、じつと見ているとどこに蹴られるかわかります。それで百発百中というくらいに抑えられる。そうするとおもしろくなった。「人から何とかわかれても自分でやってみないことにはわからない」というスタンスは、ほかのことに

においてもずっと共通していると思ひます。アウグスティヌスが隣に来るといふ話ですが、彼の『告白』は、多くの人がおもしろいと書評を書いているし、僕も読んでおもしろかったです。ところが『神の国』になるといろいろな神々を否定するの躍起になつていて、理屈っぽく感じられおもしろくない。だけれど、終わりに近い方だつたと思ひますが、岩波文庫の最終巻に性の話が出てきて、「人

間に罪が入ってくる前は、性器を自由に動かせた」と。そんなことあるかよ?」つて、電車の中でブツと噴き出してしまった。アウグスティヌスはそういうことまでマジメに考えているわけ、そうすると、何か急に隣に来ると、それもこれも、けつきよく身体性だと思ふんです。

また、『源氏物語』は原文では三回、いろいろな訳では七回読みました。『文の風景』に入れた「天才紫式部」に浮舟のことを書いています。「宇治十帖」の浮舟は自殺を図つて川に飛び込んだけれど、横川の僧都に助けられたという女性です。

「僧都の妹尼たちが初瀬へのお礼参りに出かけた折、八十歳になつてい

る母尼と、これまた年老いた女房二人ふたりの大いびきに囲まれ、『今宵この人びとにや食はれなむ』と思ひ、浮舟は一睡もできせん。もし入水した折に死んでいたら、『これよりも恐ろしげなる者のなかにこそはあらまし、と思ひやら』れ、ついに出家を決意する(『天才紫式部』〇九二頁)

間は罪が入ってくる前は、性器を自由に動かせた」と。そんなことあるかよ?」つて、電車の中でブツと噴き出してしまった。

アウグスティヌスはそういうことまでマジメに考えているわけ、そうすると、何か急に隣に来ると、それもこれも、けつきよく身体性だと思ふんです。

また、『源氏物語』は原文では三回、いろいろな訳では七回読みました。『文の風景』に入れた「天才紫式部」に浮舟のことを書いています。「宇治十帖」の浮舟は自殺を図つて川に飛び込んだけれど、横川の僧都に助けられたという女性です。

「僧都の妹尼たちが初瀬へのお礼参りに出かけた折、八十歳になつてい

る母尼と、これまた年老いた女房二人ふたりの大いびきに囲まれ、『今宵この人びとにや食はれなむ』と思ひ、浮舟は一睡もできせん。もし入水した折に死んでいたら、『これよりも恐ろしげなる者のなかにこそはあらまし、と思ひやら』れ、ついに出家を決意する(『天才紫式部』〇九二頁)

つまり、「この世のほかなさを憂いていた」とか、「道心極まって出家」ということではなく、おばあちゃんたちのすげえいびきでもって、恐ろしいババアどもに食われるんじゃないかど怖くなり、地獄に落ちていたら、もつとひといいことになつていたらうと空恐ろしく、それで出家を決意した、と、そういうこと

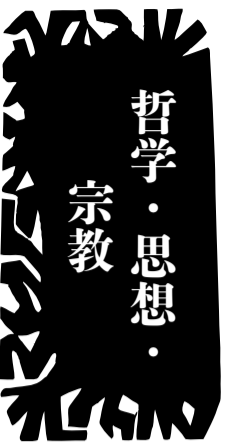
です。谷岡ヤスジのナンセンスマンガみたいで笑える。『源氏物語』は時代を超えたとおもしろい。僕は十代のころから今も聖書を読んでいるのですが、『新約聖書』には笑えるところが出てこない。『新約聖書』の書簡の中に、「聖書の文言はすべて聖霊によって導かれて記された書物だ」と書かれている。この「聖

書」とは『旧約聖書』のことです。「人間が記したかもしれないけれど、聖霊に導かれて書かれたから、笑いが無いんだな」とピンときました。「カルヴァンの『キリスト教綱要』というの、フランスでは聖書と同じくらいに読まれている」と耳にしたことがあります。だけれど、カルヴァンのものを読んでみると、胸が苦しくなってくる。それに対して、同時期に書かれたラブレターの『ガルガンチュワとパンタグリユエル』は、途方もない、むちゃくちゃな怪物みたいなのが出てくるけれども笑いがあ

る。宗教改革の時代を考えると、「笑」というのは、人間のものなんだな」と、つくづく思ひます。「笑いを武器にする」ということは要するに、神様や聖霊によって導かれた言葉ではなくて、人間を武器にすること。そう考えると、アウグスティヌスは聖人にされているけれど、『神の国』も『源氏物語』も人間が書いたものだと合点がいきます。「身体性をもつて読む」ということ、それに尽きると思ひます。小学校時代のサッカーの話から、いろいろアメンバーみたいに広がってしまいましたが、「まずは自分で読む、どんなにエライ人が論じていても、そのまま鵜呑みにしない」ということを続けてきました。(次号に続く)



中条省平氏



◎各書籍の左下に¥で示している数字は紙の書籍の税抜価格です。

### 日常の冒険 ホワイトヘッド、経験の宇宙へ

佐藤陽祐 (中央大学兼任講師)  
生きるということは、何かとかわり合うことである——  
多様な関係からいかにして知覚主体としての「わたし」が生まれるのか。  
四六判上製・二三頁 定価(3800円+税)  
ISBN 978-4-86110-748-1



律から密へ―晩年の慈雲尊者  
秋山学 (筑波大学教授)  
ISBN 978-4-86110-600-2 ¥5500

カント伝 マンフレッド・キューン 著/菅  
沢龍文・中澤武・山根雄一郎 訳  
ISBN 978-4-86110-479-4 ¥9000

法華経詳解[ハングル訳注・法華経要解]上  
河瀬幸夫 (研究者)・金星周 (東国大学校教授) 訳  
ISBN 978-4-86110-549-4 ¥6500

法華経詳解[ハングル訳注・法華経要解]下  
河瀬幸夫・金星周 訳  
ISBN 978-4-86110-577-7 ¥6500

巫者のいる日常―津軽のカミサマから都心の  
スピリチュアルセラピストまで 村上晶  
ISBN 978-4-86110-558-6 二刷 ¥3500

哲学はじめの一步 楽しむ/働く 立正大学  
文学部哲学科編 楽しむ ISBN 978-4-86110-  
541-8 働く ISBN 978-4-86110-542-5 各¥1500

哲学はじめの一步 全四巻函入  
立正大学文学部哲学科編  
ISBN 978-4-86110-459-6 二刷 ¥3241

鈴木大拙の「日本の霊性」―エマヌエル・ス  
ウェーデンホルグ新井奥邃との対比から  
那須理香 ISBN 978-4-86110-554-8 ¥4500

教えることの哲学 ジョン・パスモア 著/  
小澤喬 (東京理科大学名誉教授) 訳  
ISBN 978-4-86110-376-6 ¥4100

姿を変えたキリスト―みなし子を育てたシス  
ターたち 菊地章太 (東洋大学教授)  
ISBN 978-4-86110-475-6 ¥2200

思想家としての石橋湛山―人と時代  
山口正 (石橋湛山記念財団評議員)  
ISBN 978-4-86110-472-5 二刷 ¥3000

但徠と鹿庵  
末木恭彦 (駒澤大学教授)  
ISBN 978-4-86110-494-7 ¥3500

随想 西田哲学から聖霊神学へ  
小野寺功 (清泉女子大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-464-0 ¥3500

エコ・ファンタジー―環境への感度を拡張する  
ために 山田利明 (東洋大学名誉教授)・河本英夫 (東  
洋大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-468-8 ¥3500

越境する哲学―体系と方法を求めて 村上勝  
三 (東洋大学名誉教授)・東洋大学国際哲学研究セ  
ンター編 ISBN 978-4-86110-478-7 ¥5500

### 長谷川宏

# 日々の風

暮らしのなかの哲学

### 23 手紙のやりとり

同居する孫娘はいま小学一年生だ。兄二人に鍛えられておませに育っていて、その挙動が興味を引く。  
保育園で教わって平仮名が読めるようになって、書くことにも挑戦し、折れ曲がった字で友だちに手紙を書き出した。母親に宛名を書いてもらって投函すると、ちよつと得意げだ。返事待たふうだが、相手も保育園児だからまあ返事は来ない。北海道に越した友だちに書いたときには返事待ちの気持ちも強く、わたしも来ればいいのにと思ったりしたが、やはり来なかった。十日もすれば娘は手紙を出したことも忘れていた。  
さて、ときどきわが家に来て娘とことばを交わす知人の女性が、この夏休みに娘へのプレゼントとしてかわいいレターパックを送ってくれた。娘がうれしそうにしているのを見て、「お礼の手紙を書けば」とつい口にした。平仮名の手紙を書く場面を思い出していること。「ええっ」と娘はとまどつたふうだった。おとな相手の手紙は子ども同士の気楽さがもてないようで、書くのも休み休みだったし、出

したあと返事待たふうだ。兄二人そんなところへ返事が来た。さぞ喜ぶだろうと思つて手渡すと、うれしそうではない。子ども同士のやりとりとやはり勝手がちがつて、事態に心がついていかならないらしい。読むには読んだが、すぐそのままそらにはうり出してた。  
ところが、手紙がなにかの折りに目にとまると、二度、三度と手に取つて読んでいた。優しいおとなが自分に、自分だけに書いてくれたものだということがちよつと特別のことに思えてきたらしい。プレゼントのお札を書くように言つたのは余計な口出しだったかな、と、後悔の気持ちがなくなつた。返事を見返す娘のそぶりに気が軽くなつた。そこに、わずかながら子どもとおとなの心の通い合いが感じられたからだ。  
こういう小さな経験の積み重ねが、幼い子の心に人への信頼感を育ててくれたらいいな、と、いまはそんなことを思っている。  
(哲学者)

死生学―死の隠蔽から自己確信へ  
岩崎大 (東洋大学東洋学研究所客員研究員)  
ISBN 978-4-86110-438-1 ¥3982

虚構の形而上学―「あること」と「ないこと」  
のあいだで 中村靖子 (名古屋大学教授) 編  
ISBN 978-4-86110-436-7 ¥3500

リハビリテーションの哲学あるいは哲学のリハ  
ビリテーション 稲垣論 (東洋大学教授)  
ISBN 978-4-86110-303-2 三刷 ¥2381

横超の倫理―ローティ、ハイエク、シンガー  
を超えて 谷口隆一郎 (聖学院大学教授)  
ISBN 978-4-86110-393-3 ¥3333

直接知の探求―西田・西谷・ハイテッカー・  
大拙 松丸壽雄 (獨協大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-347-6 ¥4000

《文化》の思想―現代日本の位置から  
西欣也 (甲南大学教授)  
ISBN 978-4-86110-323-0 ¥2200

構性と身代わり―記憶できないものをめぐって  
長田陽一 (京都光華女子大学教授)  
ISBN 978-4-86110-275-2 ¥2200

心理臨床と脱構築の経験―(他者)をめぐって  
長田陽一 (京都光華女子大学教授)  
ISBN 978-4-86110-345-2 ¥2400

仮説法の倫理学―ポー・ハース・ハイテッカー  
村上隆夫 (群馬大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-309-4 ¥5600

『方法教説』をめぐる六つの試論―「日本の思  
惟と西欧の思惟」に介在する深淵 小林利夫 著・  
徳永雅編 ISBN 978-4-86110-254-7 電子版のみ ¥3619

新井奥邃  
新井奥邃著作集(1、4、10巻品切)  
工藤正三(新井奥邃先生記念会幹事)・コルルダ  
ニエル(元福岡女学院大学教授) 共編 各巻¥6500

奥邃論集成  
春風社編集部編  
ISBN 978-4-86110-424-4 ¥2700

おうすいホケット 新井奥邃語録抄 三浦衛・  
コルルダニエル編 白表紙 ISBN 978-4-86110-454-1  
黒表紙 ISBN 978-4-86110-455-8 各巻¥2200

### シリーズ 幻想と怪奇の英文学

幻想と怪奇の英文学 II―増殖進化編  
東雅夫・下楠昌哉編  
ISBN 978-4-86110-516-6 ¥3200

幻想と怪奇の英文学 III―転覆の文学編 東雅  
夫・下楠昌哉編/ローズマリー・ジャクソン  
著/下楠昌哉訳 ISBN 978-4-86110-622-4 ¥3700

幻想と怪奇の英文学 IV―変幻自在編  
東雅夫・下楠昌哉編  
ISBN 978-4-86110-699-6 ¥3000



### カントとシンカタテニス論

福田喜一郎 (鎌倉女子大学教授)  
命題において表される知識とこれに対する心の  
関わり方を、「シンカタテニス(同意)」  
の諸局面の検討・その本性の探求を通して  
問う。  
ISBN 978-4-86110-713-9 ¥6600

スマホと哲学  
岩崎大 (東洋大学東洋学研究所客員研究員)  
哲学は、すぐに役立つ便利な情報ではない。  
著名な哲学者の格言を引つ張り出すことでも  
ない。「よく生きる」ことを企図する作法  
とは。  
ISBN 978-4-86110-736-8 ¥1800

環境を批評する―英米系環境美学の展開  
青田麻未 (日本学術振興会特別研究員)  
ISBN 978-4-86110-698-9 ¥4000

小鳥が歌う―古いポルトガル語による聖母マ  
リアの詩 菊地章太 (東洋大学教授)  
ISBN 978-4-86110-694-1 ¥3600

16世紀後半から19世紀はじめの朝鮮・日本・  
琉球における《朱子学》遷移の諸相 片岡龍  
(東北大学教授) ISBN 978-4-86110-681-1 ¥3400

死ぬ権利はあるか―安楽死、尊厳死、自殺幫  
助の是非と命の価値 有馬斉(横浜市立大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-624-8 三刷 電子版あり ¥4300

### 朝鮮儒学の巨匠たち

韓亨祚 (韓国学中央研究院  
教授) 著/片岡龍 (東北大学教授) 監・解説/朴福榮  
(韓国語教室主宰) 訳 ISBN 978-4-86110-500-5 ¥5500

「た人間であることが持つ道徳的価値―相互  
に尊重し合う自由で平等な個人が築く民主主義  
浜野研三 ISBN 978-4-86110-636-1 ¥3500

日本におけるイスラーム研究史―中国篇  
アリム・トヘイ (東北大学助教)  
ISBN 978-4-86110-632-3 ¥4000

キルケゴールの実存解釈―自己と他者  
河上正秀 (筑波大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-597-5 ¥3500

深い河の流れ―宗教多元主義への道  
長谷川(問瀬) 恵美 (桜美林大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-604-0 ¥2200

そこには何かある―「この自分」が在るとい  
う不思議 牟田隆郎 (元聖学院大学教授)  
ISBN 978-4-86110-612-5 ¥1800

人間形成としての教養―ハンガリー、フィンラン  
ド、日本におけるドイツ的理學の受容と将来展望  
高橋輝暁編 ISBN 978-4-86110-596-8 ¥2000

# 文芸評論



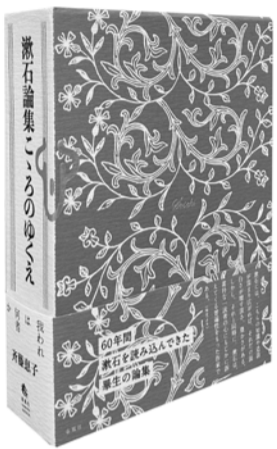
**文学とアダプテーションII**  
ヨーロッパの古典を読む  
小川公代 (上智大学教授)・吉村和明 (上智大学名誉教授) 編  
ヨーロッパの〈古典〉に焦点を当て、アダプテーションによって新しい魅力を持ちうることを明らかにする論集。  
四六判上製・五二〇頁 定価(3,600円+税)  
ISBN 978-4-86110-755-9



**我、アメリカン 敵ヲ発見セリ**  
ハインラインの青少年向け小説における白人性  
鳥克也 (安田女子大学講師)  
人気SF作家の青少年向け小説群を詳細に分析。コミックブックが駆逐された一九五〇年代に、ハインラインが遭遇した「アメリカの敵」とは？  
四六判上製・三三六頁 定価(3,900円+税)  
ISBN 978-4-86110-746-7

## 漱石論集

こゝろのゆくえ  
齊藤恵子 (大妻女子大学名誉教授)  
ライフワークとして六〇年間漱石を読み込んできた畢生の論集。漱石はいかに読まれ、論じられてきたのか、その魅力と時代の諸相に迫る。  
四六判上製函入・五七六頁 定価(4,500円+税)  
ISBN 978-4-86110-763-4



## 希望の本質

サミュエル・ジョンソンの思想と文学  
石井善洋 (広島修道大学教授)  
イギリス文学史上二時代を画す文壇の巨人サミュエル・ジョンソン。その思想と文学の基本的な構図を解き明かし、希望の本質に迫る。  
四六判上製・二五六頁 定価(3,500円+税)  
ISBN 978-4-86110-776-4



日本語文化学会創立45周年記念論文集 英語文化研究 日本語文化学会編  
ISBN 978-4-86110-745-0 ¥4000

ジェイン・オースティンのグロテスクな笑い―困った人たち 岡本由恵  
ISBN 978-4-86110-731-3 ¥3600

モダニズムの冒険―ヴァージニア・ウルフと同時代の小説における食の表象 大西祥恵  
ISBN 978-4-86110-690-3 ¥2700

異形のヒューリタン―ジョン・ウィンスロップ・ジュニアとトランスアトランティック・トランザクション 佐藤憲一  
ISBN 978-4-86110-712-2 ¥3900

フルーロックの世界―T・S・エリオットの限りなく悩めるもの 遠藤光 (実践女子短期大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-672-9 ¥4500

スコットランド文学の深層―場所・言語・想像力 木村正俊 (神奈川県立外語短期大学名誉教授) 編  
ISBN 978-4-86110-689-7 ¥3700

American Measure: William Carlos Williams's Vision of Free Verse 吉田亞矢 (京都大学特任講師)  
ISBN 978-4-86110-732-0 ¥5000

中世英語文学研究の多様性とその展望 菊池清明・岡本広毅 編  
ISBN 978-4-86110-714-6 ¥8000

最強の男―三国志を知るために 竹内真彦 (龍谷大学教授)  
ISBN 978-4-86110-702-3 ¥2000

個から群衆へ―アメリカ国民文学の鼓動 佐久間みかよ (学習院女子大学教授)  
ISBN 978-4-86110-663-7 ¥3400

神西清の散文問題 小林美 (十文字学園女子大学教授)  
ISBN 978-4-86110-667-5 ¥3900

ホール・ホルズ 越境する空の下 外山健一 (山口大学教授)  
ISBN 978-4-86110-683-5 ¥4500

Shakespeare Performances in Japan: Intercultural-Multilingual Translingual 浜名恵美 (筑波大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-657-6 ¥5500

救いと寛容の文学―ゲートからフォークナーまで 今村武 (東京理科大学教授) 他  
ISBN 978-4-86110-654-5 ¥3500

めぐりあうテキストたち―フロンテ文学の遺産と影響 惣谷美智子・岩上はる子 編  
ISBN 978-4-86110-629-3 ¥3500

村上春樹 精神の病と癒し 南富鎮 (静岡大学教授)  
ISBN 978-4-86110-652-1 ¥2700

『ハタロー』を読む―ウィリアムズの長篇詩 江田孝臣 (元早稲田大学教授)  
ISBN 978-4-86110-645-3 ¥3500

ジョイスの拡がり―インターテキスト・絵画・歴史 田村章 (金城学院大学教授)  
ISBN 978-4-86110-625-5 ¥3500

未完のカミュ―絶えざる生成としての揺らぎ 阿部こずみ (東北文科大学教授)  
ISBN 978-4-86110-623-1 ¥3700

翻訳とアダプテーションの論理―ジャンルとメディアを越えて 今野喜和人 (静岡大学名誉教授) 編  
ISBN 978-4-86110-621-7 ¥3500

D・H・ロレンスを雌牛スーザン・ロレンスの神秘主義をめぐって W ティンダル 著/木村公一・倉田雅美 小林みどり 訳  
ISBN 978-4-86110-627-9 ¥4000

揺れ動く「保守」―現代アメリカ文学と社会 山口和彦 (上智大学教授)・中谷崇 (横浜市立大学准教授) 編  
ISBN 978-4-86110-609-5 ¥3500

黙って踊れ、エレクトラ―ホフマンスタールの言語危機と日本 関根裕子 (早稲田大学等非常勤講師) ISBN 978-4-86110-637-8 ¥4200

非在の場を拓く―文学が紡ぐ科学の歴史 中村靖子 (名古屋大学名誉教授) 編  
ISBN 978-4-86110-635-4 ¥4100

アメリカは日本文化をどう読んでいたか―村上春樹、吉本ばなな、宮崎駿、押井守 芳賀理彦 敬愛大学准教授) ISBN 978-4-86110-605-7 ¥3000

エミリー・ディキンソンを理詰めで読む―新たな詩人像をもとめて 江田孝臣 (元早稲田大学教授) ISBN 978-4-86110-605-7 ¥3000

アレコリーで読むアメリカ/文学―ジェンダーと「シックスの修辭学」 武田悠一 (元南山大学教授) ISBN 978-4-86110-569-2 ¥3500

『フィネガンス・ウェイク』のプロローグを読む―Herrnから phoenishへ 奥田良一 (東海大学) ISBN 978-4-86110-575-3 ¥3000

一人の詩人と二人の画家―D・H・ロレンスと「ローマ」K・メルル 著/木村公一・倉田雅美 伊藤芳子 訳  
ISBN 978-4-86110-498-5 ¥4100

外見の修辭学―一九世紀末アメリカ文学と人の「見た目」を巡る諸言説 福井崇史 (國學院大学) ISBN 978-4-86110-581-4 ¥4000

グロテスク・美のイメージ―ドムス・アウレア・ピラネージからフロアールまで 武末祐子 (西南学院大学教授) ISBN 978-4-86110-588-3 ¥3200

文学という名の愉楽―文芸批評理論と文学研究へのアプローチ 寒河江光徳 (創価大学教授) ISBN 978-4-86110-595-1 ¥2200

身体と感情を読む―イギリス小説―精神分析、セクシュアリティ、優生学 武田美保子 (京都女子大学) 編  
ISBN 978-4-86110-582-1 ¥2700

文学とアダプテーション―ヨーロッパの文化的変容 小川公代・村田真一・吉村和明 編  
ISBN 978-4-86110-559-3 二刷 ¥3200

世紀末の長い黄昏―H・G・ウェルズ試論 宗洋 (高知大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-550-0 ¥2700

松本清張の葉脈 南富鎮 (静岡大学教授)  
ISBN 978-4-86110-557-9 ¥2700

キャサリン・マンスフィールド―荒地を吹き渡る風のように自由―手塚裕子 (川村学園女子大学) 編  
ISBN 978-4-86110-553-1 ¥3200

文学都市ダブリン―ゆかりの文学者たち 木村正俊 (神奈川県立外語短期大学名誉教授) 編  
ISBN 978-4-86110-518-0 ¥3700

カポーティ小説の詩的特質―音と文彩 大園弘 (九州国際大学教授)  
ISBN 978-4-86110-521-0 ¥3200

バルザックの文学と「エンター」女性作家との比較から分かること 東辰之介 (駒澤大学教授) ISBN 978-4-86110-533-3 ¥3600

スコットランド、「一八〇三年」ワースワス兄妹とコールドリッジの旅 安藤潔 (関東学院大学教授) ISBN 978-4-86110-529-6 ¥2700

帝国と文化―シェイクスピアからアントニオ・ネグリのまで 江藤秀一 (常葉大学特任教授) 編  
ISBN 978-4-86110-517-3 ¥3500

異文化理解とバフォーマンス―Border Crossers 松田幸子・笹山敬輔・姚紅 編著  
ISBN 978-4-86110-499-2 ¥4500

パブリック圏としてのイギリス演劇―シェイクスピアの時代の民衆とドラマ 中村友紀 (関東学院大学教授) ISBN 978-4-86110-501-2 ¥3000

ヘーター・フーヘル―現代詩への軌跡 土屋洋一 (元愛知大学教授)  
ISBN 978-4-86110-481-7 ¥3200

T・S・エリオットの詩を解読する 滝沢博 (元高岡法科大学教授)  
ISBN 978-4-86110-476-3 ¥2200

神奈川ゆかりの作家たち 最賀進 (SAGAハラス代表)  
ISBN 978-4-86110-462-6 二刷 ¥1500

フロンテ小説における病いと看護 川崎明子 (駒澤大学教授)  
ISBN 978-4-86110-427-5 ¥3500

秘密のラティガン―戦後英国演劇のなかのフランス・メディア空間 大谷伴子  
ISBN 978-4-86110-448-0 二刷 ¥2700

マーガレット・オブ・ヨークの「世紀の結婚」―英国史劇とブルジョア公国 大谷伴子  
ISBN 978-4-86110-419-0 二刷 ¥2700

交錯する戦争の記憶―占領空間の文学 黄益九 (在日コリアン研究所)  
ISBN 978-4-86110-422-0 ¥3300

ジョージ・エリオットの異文化世界 高野秀夫 (駒澤大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-395-7 ¥3333

戸籍の謎と丸谷才一 ノーントン不破直子 (日本女子大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-381-0 ¥1800

朝鮮神話の源流―「ハリ公主神話」と「ダンクン神話」を巡って 金香淑 (元白田大学准教授) ISBN 978-4-86110-313-1 ¥4500

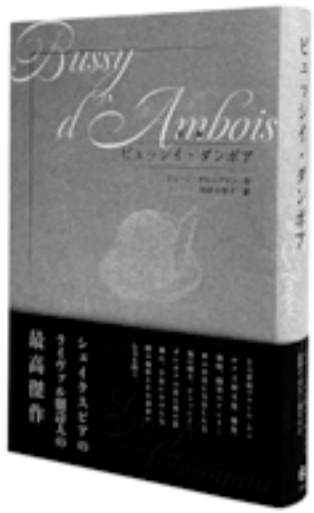
アントニオ・タウッキ 反復の詩学 花本知子 (京都外国語大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-358-2 ¥3000

Bowulf 橋本修一 (千葉工業大学教授)  
ISBN 4-86110-060-7 ¥2000

カスオ・イシタロー「日本」と「イギリス」の間から 莊中孝之 (京都女子大学教授) ISBN 978-4-86110-255-4 三刷 ¥3000

ラファディオ・ハインとジェイムズ・トムリン―「四季」をめぐる先川暢郎 (拓殖大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-285-1 ¥3333

# 文学・エッセイ



**ビュッシイ・ダンボア**  
 ジョージ・チャップマン作  
 川井万里子 (東京経済大学名誉教授) 訳  
 シェイクスピアのライヴァル劇詩人の最高傑作。一六世紀フランス宮廷における愛と死の悲劇に、人間の根本的な非合理性が描かれる。  
 四六判上製・三〇頁  
 定価(3100円+税)  
 ISBN 978-4-86110-777-1

## ことばへの気づき

カフカの短篇を読む  
 松原好次 (元電気通信大学教授)  
 外国語教育や少数言語の研究に携わってきた著者が、自身の経験と生活を、そしてカフカを読むことを通して、ことばを見つめたエッセイ集。  
 四六判並製・三四〇頁 定価(2700円+税)  
 ISBN 978-4-86110-754-2

## 対談集 春風問学

春風社編集部 編  
 二〇一二年より春風社で行ってきた対談を集成し、野における学の意義と出版のあり方を問う。池内紀、長田弘ら二〇名。  
 四六判並製・三〇頁 定価(1800円+税)  
 ISBN 978-4-86110-768-9

## 文の風景

とくちやまのマンガ、音楽、映画  
 三浦衛 (春風社代表取締役社長)  
 学術出版社の代表が、古今東西の本を読み、笑い、嘆き、学ぶ。ブログ「よもやま日記」二〇一〇年一月〜二〇二二年五月より抜粋。  
 四六判上製三ツツス装・六〇八頁  
 定価(2500円+税)  
 ISBN 978-4-86110-749-8



## 学ゆりかごー母と娘のテイスタンス

春風社編集部 編  
 学問や出版を生業とする女性9名が、自身の原点である「母」のこと、そして、母と娘特有の心的距離について、さまざまに綴ったエッセイ集。「学び」の根について考える。  
 ISBN 978-4-86110-743-6 ¥1800

ロバート・フロスト詩集 ニューハンプシャー  
 藤本雅樹 (龍谷大学教授) 訳  
 ISBN 978-4-86110-715-3 ¥4000

鎌倉山奇譚 水琴窟の館  
 ソーントン不破直子 (日本女子大学名誉教授) 訳  
 ISBN 978-4-86110-696-5 ¥1500

ゴマシ狂騒曲―旅する「小枝通信」より  
 堤小枝子 (エッセイスト)  
 ISBN 978-4-86110-697-2 ¥1500

永遠なるカミノー―フランス人作家による〈もつじの〉サンティアゴ巡礼記 今野喜和人 訳 ISBN 978-4-86110-674-3 ¥2500

編 Tadahata  
 三浦衛 (春風社代表)  
 ISBN 978-4-86110-610-1 ¥2200

荒地 T・S・エリオット著/滝沢博 (元高岡法科大学教授) 訳・解説  
 ISBN 978-4-86110-649-1 ¥2900

説得されて ジェイン・オースティン著/藤田永祐 (獨協大学名誉教授) 訳  
 ISBN 978-4-86110-620-0 ¥2500

イブの娘 オノレ・ド・バルザック著/宇多直久 (元滋賀大学講師) 訳  
 ISBN 978-4-86110-628-6 ¥2100

バルサク王国の裏庭から―「リュジェリーの秘密」と他の作品集 宇多直久 (元滋賀大学講師) 編訳 ISBN 978-4-86110-544-9 ¥2500

詩集 時のなか  
 北岡武司 (岡山大学名誉教授)  
 ISBN 978-4-86110-616-3 ¥1800

古英語叙事詩『ヘーオウルフ―クレーパー第4版対訳 吉見昭徳 (明治学院大学名誉教授) 訳  
 ISBN 978-4-86110-572-2 ¥4000

鐘の音が響くカフカで  
 ポール・ヴァッカ著/田村奈保子 (福島大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-606-4 ¥2500

二つの季節  
 松永澄夫 (東京大学名誉教授)  
 ISBN 978-4-86110-601-9 ¥1000

太陽と黄昏と夜 詩的風景  
 高野正夫 (駒澤大学名誉教授)  
 ISBN 978-4-86110-589-0 ¥1800

## 中条省平 SHOHEI CHUJO

# 翻訳ピンチ!

### 恩師・山崎先生のこと

前回の本欄で2月中の「ベスト終息」をめざしますと書きましたが、なんとかカミュの『ベスト』の翻訳を終わらせ、この9月に上梓することができました。

いつものことながら、翻訳はつらく、終わるともう二度とやるもんかと思えます。しかし、それにもかかわらず、編集者の誘いがあると、ついついひき受けてしまうということのくり返しです。今回の『ベスト』で翻訳は30冊くらいになったと思います。

生れて初めての翻訳書は、フランスの比較文学者ラングラーの『D・G・ロセッティ』というラファエル前派の画家の伝記でした。奥付には1990年とありますから、かれこれ30年以上も翻訳者稼業をやってきて、30冊ほどの仕上がりといいわけです。

『D・G・ロセッティ』は山崎庸一郎との共訳で、山崎先生は私の恩師です。文字どおりABCからフランス語を教えてください、私がフランス留学から帰国したとき、その教えの締めくくりのように、この共訳を提案してくれたのでした。

思えば、山崎先生が私を翻訳家にした

ようなものです。酒席で、マリオ・プラーツの『ロマンの苦悶』(英訳版)に出てくるバルベール・ドールヴィイの紹介が面白かったと感想をいったところ、それじゃあ日本語に翻訳して見せてごらん、と命じられたのが、正真正銘、初めての翻訳への導きでした。その結果、いくつかの注意点を指摘され、一応の合格点ももらって、翻訳も面白いなあと感じたのでした。

山崎先生の翻訳は、澁澤龍彦も賞讃した正確無比なところが特色で、正直いって、私は堅苦しく感じることもありましたが、しかし、一字一句の厳しい解釈と、それを最も的確な日本語に移すたゆみのない努力を見て、私は翻訳というもの、あるべき形のひとつの極限を教えられました。今でも翻訳をしながら、山崎先生だったらこの訳文をどう評するだろうか、とふと想像することがあるのです。(仏文学者)

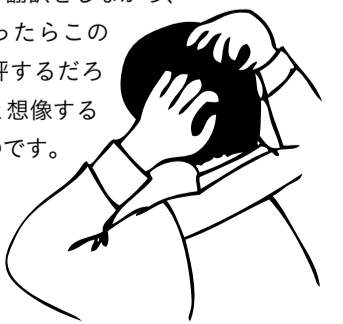


イラスト: たけなみゆづこ

孤独な殿様  
 ソーントン不破直子 (日本女子大学名誉教授)  
 ISBN 978-4-86110-617-0 ¥1500

孤獨な殿様  
 ソーントン不破直子 (日本女子大学名誉教授)  
 ISBN 978-4-86110-617-0 ¥1500

画文集 旅の貼り絵  
 安田彰 (元亜細亜大学教授)  
 ISBN 978-4-86110-546-3 ¥1750

八月の瓜―母へ 彭学明著/立松昇一 (元拓殖大学教授)・舟山優士 (翻訳家) 訳  
 ISBN 978-4-86110-520-3 ¥2500

カメレオン  
 三浦衛 (春風社代表)  
 ISBN 978-4-86110-473-2 ¥2200

鎌倉三猫物語  
 ソーントン不破直子 (日本女子大学名誉教授)  
 ISBN 978-4-86110-430-5 ¥1500

鎌倉三猫いまふたひ  
 ソーントン不破直子 (日本女子大学名誉教授)  
 ISBN 978-4-86110-515-9 ¥1500

クリスマス・キャロル チャールズ・デイケ  
 ンズ著/井原慶一郎 (鹿児島大学教授) 訳  
 ISBN 978-4-86110-474-9 二刷 ¥1500

デテムシ 新美南吉詩歌集  
 石川勝治 (長崎県立大学名誉教授)・高藤卓志 (民俗学者) 編 ISBN 978-4-86110-406-0 ¥1800

スウェーデン民話名作集 数下絨一訳  
 III ISBN 978-4-86110-339-1  
 IV ISBN 978-4-86110-368-1 各巻¥1905

いないも同然だった男 パトリス・ルコント  
 著/桑原隆行 (福岡大学教授) 訳  
 ISBN 978-4-86110-458-9 二刷 ¥1800

愉しみは最後に パトリス・ルコント、ダ  
 ヴィッド・デカンヴァル著/桑原隆行 (福岡  
 大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-418-3 ¥1800

エドワード・トーマス詩集  
 吉川朗子 (神戸市外国語大学教授) 訳  
 ISBN 978-4-86110-429-9 ¥2000

お爺ちゃんとお  
 太オタ・フイリップ著/北岡武司 (岡山大学名誉  
 教授) 訳 ISBN 978-4-86110-446-6 ¥2500

人生の請求書  
 石橋幸子 (カンナ社代表)  
 ISBN 978-4-86110-410-7 ¥1300

カフカの女主人  
 レイモン・シヤン著/桑原隆行 (福岡大学教授) 訳  
 ISBN 978-4-86110-356-8 ¥2200

父のふるさと―秋田往来  
 三浦衛 (春風社代表)  
 ISBN 978-4-86110-243-1 ¥1905

出版は風まかせ―おとほけ社長奮闘記  
 三浦衛 (春風社代表)  
 ISBN 978-4-86110-193-9 ¥1300

谷川健一全歌集  
 谷川健一 (民俗学者・歌人)  
 ISBN 978-4-86110-104-5 ¥3800

# 芸術・音楽・写真

## 戦後日本のコミュニティ・シアター

特別でない「私たち」の演劇

須川渡 (福岡女学院大学准教授)  
演劇に従事しない素人の演劇活動を考察。地域演劇や障害者施設での演劇実践等、多様なコミュニティにおける演劇の在り様を探る。  
A5判上製・二七二頁 定価(4500円+税)  
ISBN 978-4-86110-764-1



## インドムガル皇帝の肖像

ムガル細密画の光り輝く世界

宮原辰夫 (文芸大学教授)  
皇帝の回想記や欧州の旅行家・宣教師たちの旅行記を通して細密画を検証。ムガル皇帝と一族の栄枯盛衰を描く。  
A5判並製・一四〇頁 定価(3500円+税)  
ISBN 978-4-86110-771-9

# しりあがり寿 mini 大河 25 勝利の後



大勝だった。

戦場は見渡す限り敵の死体で埋まり、そこかしこに打ち捨てられた旗印はほとんどが敵方のものだった。

「勝ちまじいぞうさきするー」

羽左衛門はこの勝利を報告するべく主君の前に進んだ。

主君の海山緑の介は教養人として知られ、今風に言えば「意識の高い」武士だった。

「苦勞であった！ よく聞け。我々がこのような暮らしをしていると六〇〇年、七〇〇年後にはこの星全体が温かくなるだろう。」

「は？」

「それを防ぐためにはとにかく「ミ」は分別して捨てなければならぬ」

「とじつ」とはつまり〜」

「戦場を片付けるにあたって、武器甲冑などの燃えない「ミ」、旗差し物などの燃える「ミ」などを全て分けて捨てるのじゃ。よいな！」

羽左衛門は今しがたの戦場を思い出して、生「ミ」の多さにゲンナリした。

ナチスと闘った劇場―精神的国土防衛とチューリヒ劇場の「伝説」葉柳和則(長崎大学教授) 編 亡命演劇人を起用しつつ焚書にされた作品の上演を続け、民主主義の象徴として伝説化されたスイスのチューリヒ劇場。作品上演のプロセスを分析し、実態に迫る。  
ISBN 978-4-86110-719-1 ¥4200

一九四〇年代素人演劇史論―表現活動の教育的意義  
小川史(横浜創英大学教授)

明治末に民衆芸術として生まれ、昭和の戦時体制で用いられた素人演劇の変遷を検討。生活に根ざした表現による自己理解の様相を描き出す。  
ISBN 978-4-86110-717-7 ¥5000

イタリア・宝塚・2.5次元―多彩な演劇世界をめぐる 鈴木国男(共立女子大学教授)

イタリア演劇、宝塚歌劇、2.5次元ミュージカルという異なるジャンルを通して、演劇文化の蓄積を俯瞰し、つながりを探る。演劇の豊かさを再発見。  
ISBN 978-4-86110-737-5 ¥2900

半分満たされたグラス ジャズとシグニファイイング 椿清文(津田塾大学名誉教授)

江戸の黙阿弥―善人を描く 理忠美沙(お茶の水女子大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-706-1 ¥4500

転生する物語―アフターシーエンの愉しみ 渡辺諒(早稲田大学教授)

見る・見せる―中国四川・福建の演劇にみる「演じる」こと・人・空間 細井尚子(立教大学教授) ISBN 978-4-86110-671-2 ¥4500

本の縁側 矢萩多聞(作家・画家)

明治・大正 東京の歌舞伎興行―その「継続」の軌跡 寺田詩麻(龍谷大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-631-6 ¥8000

ホベルト・ブルー・マルクスの庭にて ジャック・レナール 監修 荒井芳廣(大妻女子大学名誉教授) 訳 ISBN 978-4-86110-594-4 ¥3200

躍動―横浜の若き表現者たち 細見兼介  
ISBN 978-4-86110-640-8 ¥1800

浅草2011-2016―六区ブロードウェイ日本人の肖像 初沢克利(写真家)  
ISBN 978-4-86110-547-0 ¥7000

吉住小三代(長岡吉住会)  
ISBN 978-4-86110-562-3 ¥1852

石巻片影 三浦衛(春風社代表) 著/橋本照嵩(写真家) 写真 ISBN 978-4-86110-530-2 ¥2500

石巻2011.3.27〜2014.5.29 橋本照嵩(写真家)  
ISBN 978-4-86110-414-5 ¥4500

【新版】北上川 橋本照嵩(写真家)  
ISBN 978-4-86110-441-1 ¥3500

表象の京都―日本映画史における観光都市のイメージ 須川まり(流通経済大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-537-1 ¥3000

【出会い】とらぬ名の劇場―演劇に生きて 岡田正子(演出家・翻訳家)

母のアルバム 伊藤政子・田中典子(清泉女子大学教授)  
ISBN 978-4-86110-523-4 ¥1800

父のアルバム 伊藤政子・田中典子(清泉女子大学教授)  
ISBN 978-4-86110-467-1 ¥1800

利根川を往く 鳩紘(写真家)  
ISBN 978-4-86110-503-6 ¥4800

物語らないアニメーション―ノーマン・マクレンの不思議な世界 栗原詩子(西南学院大学教授) ISBN 978-4-86110-493-0 ¥3500

長唄の世界へようこそ―読んで味わう、長唄入門 細谷朋子(研究者) 三刷  
ISBN 978-4-86110-400-8 ¥3400

クニラ解体 小関与四郎(写真家)

世界写真紀行―美しい自然と文化を訪ねて(海外編・国内編) 渋谷典一  
ISBN 978-4-86110-409-1 ¥3500

ドアの映画史―細部からの見方、技法のリテラシー 吉田暉(元京都産業大学教授)  
ISBN 978-4-86110-264-6 ¥1800

邦訳「ガリヴァー旅行記」書誌目録 松菱多津男  
ISBN 978-4-86110-276-9 ¥4600

OTHER VOICES 東大全共闘・68―70 平沢豊  
ISBN 4-86110-026-7 ¥2800

# 総記・辞典・事典



## 都市科学事典

横浜国立大学都市科学部編  
都市に関わる多分野の専門知を体系化・再編成し、経験知と融合させて実践的に活かすための事典。一〇の領域群に四七六項目、執筆者三三八名による「都市の知」の集大成。  
ISBN 978-4-86110-734-4 ¥25000

「コミュニティ事典」伊藤守・小泉秀樹・三本松政之・似田貝香門・橋本和孝・長谷部弘・日高昭夫・吉原直樹編 ISBN 978-4-86110-538-8 ¥25000

発信型 日本人が使いこなせないフランス基本単語小辞典 久松健一・Michel Gonçalves  
ISBN 978-4-86110-563-0 ¥2500

フランス語名詞・動詞連語辞典 石川三千夫(桜美林大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-536-4 ¥3500

フランス語事典 田所清克(京都外国語大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-496-1 ¥5000

異文化コミュニケーション事典 石井敏・久米昭元他編  
ISBN 978-4-86110-333-9 電子版のみ ¥7600

ニューズランド百科事典 ニュージーランド学会編  
ISBN 978-4-86110-111-3 ¥9333

スペイン語源辞典 太田強正(元神奈川大学教授)  
ISBN 978-4-86110-332-2 電子版のみ ¥5200

ダンテ神曲原典読解源辞典《地獄》《煉獄》《天国》 福島治 ISBN 4-921146-77-2 / 4-921146-78-0 / 4-921146-79-9 各巻 ¥46000  
現代日本語キリシタン辞典 橋本勝(大阪外国語大学名誉教授) / E・P・レフシヤン  
ISBN 4-921146-33-0 ¥15000

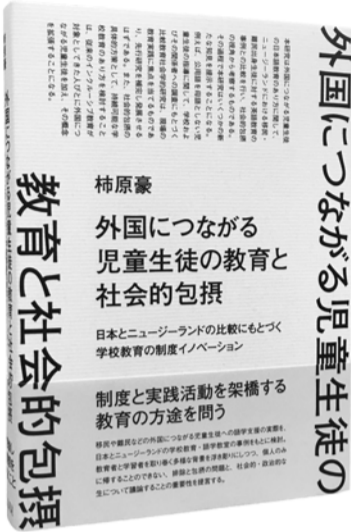
# 教育



## 野村芳兵衛の教育思想

往相・還相としての「生命信順」と「仲間作り」  
富澤美千子（横浜美術大学教授）  
明治後期から昭和期の教育者・野村芳兵衛による実践と構想の可能性を、大正自由教育運動といった社会的な影響や、池袋児童の村小小学校の取り組みから考察。自他の相即的・同時的な救済の倫理に基づく教育の意義を探究する。

四六判上製・二七二頁 定価（3630円＋税）  
ISBN 978-4-86110-750-4



## 外国につながる児童生徒の教育と社会的包摂

外国につながる児童生徒の教育と社会的包摂  
日本とニュージーランドの比較にもとづく  
学校教育の制度イノベーション

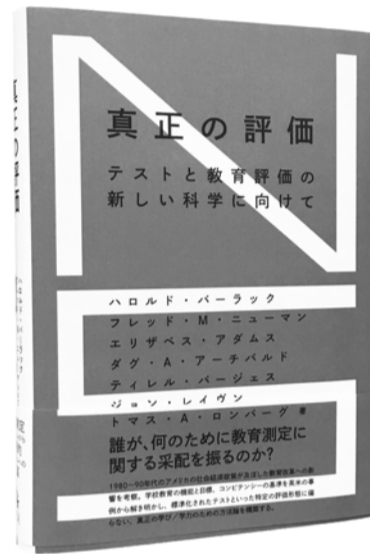
柿原豪（聖マリアンナ学園中等学校専任教諭）

移民や難民などの外国につながる児童生徒への語学支援の実際を、日本とニュージーランドの学校教育・語学教室の事例をもとに検討。教育者と学習者を取り巻く多様な背景を浮き彫りにし、制度と実践活動を架橋する教育の方途を問う。  
A5判並製・二六八頁 定価（3600円＋税）  
ISBN 978-4-86110-751-1

## 真正の評価

テストと教育評価の新しい科学に向けて  
ハロルド・バラック、フレッド・M・ニューマン他著／渡部竜也（東京学芸大学准教授）・南浦涼介（東京学芸大学准教授）・岡田了祐（お茶の水女子大学講師）・後藤賢次郎（山梨大学准教授）・堀田諭（埼玉学園大学講師）

星瑞希（東京大学大学院教育学研究科博士課程）訳  
誰が、何のために教育測定に関する採配を振るのか？一九八〇年代前後の英米の学校改革における教育評価の基準と役割を検証。多様な測定のパラダイムによる真正の学びへの方法論を構築する。  
A5判上製・三〇〇頁 定価（5000円＋税）  
ISBN 978-4-86110-756-6



## 外国につながる児童生徒の教育と社会的包摂

外国につながる児童生徒の教育と社会的包摂  
日本とニュージーランドの比較にもとづく  
学校教育の制度イノベーション  
制度と実践活動を架橋する教育の方途を問う

柿原豪（聖マリアンナ学園中等学校専任教諭）

ISBN 978-4-86110-750-4

## 教育のリーダーシップとハンナ・アーレント

ヘレン・M・ガンター著／末松裕基・生澤繁樹・橋本憲幸訳 英国の公教育の政策・経営の現代化改革がもたらした、全体主義的な影響を検討。学校・組織・政治と私たちの間にある関係、教育をめぐる「活動」の過程と意味を探る。 ISBN 978-4-86110-704-7 ¥3000

## 教室における政治的中立性—論争問題を扱うために—

ダイアナ・E・ヘス著／渡部竜也・岩崎圭祐・井上昌善監訳 論争のある問題を扱うことは政治的に中立だと言えるか？ 私たちの多様な見解から生じる価値対立の捉え方、公教育と民主社会の関係を再考する。 ISBN 978-4-86110-718-4 ¥4500

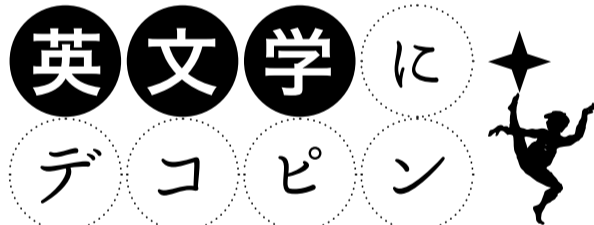
## 19世紀フランスにおける女子修道院寄宿学校

山内由賀（立命館大学非常勤講師） ISBN 978-4-86110-735-1 ¥3600  
「共生社会」と教育—南アフリカ共和国の学校における取り組みが示す可能性 坂口真康（兵庫教育大学講師） ISBN 978-4-86110-726-9 ¥5400

## 〈障害者〉として社会に参加する—生涯学習施設で行うあらゆる人の才能を生かす試み—

三谷雅純 ISBN 978-4-86110-703-0 ¥4000  
こころの生きかたを 協働愛をこころに つなぐ 立川勲 ISBN 978-4-86110-727-6 ¥3000

## 阿部公彦



## 14 語順、おそるべし

2020年、オリンピックとタイミングをあわせて大学入試は大きく変わるはずだった。しかし、もろもろの事情で政策は破綻。結局、センター試験を共通テストに取り替えるという地味な変更だけが行われた。しかし、この地味な変更にもいろいろ火種があった。たとえば英語では整序問題が廃止された。整序問題とは要するに「並べ替え」のことである。「あ〜、あれか」と思う人も多いだろう。選択肢の単語を並べ直して意味の通る英文にせよ、というあれである。

用性がない！」と言い放つのは短絡的では？といった意見である。そこから「なぜ廃止するんだ」という批判も出てきた。私の考えも後者に近い。そんなこともあり、今回は並べ替えの奥深さを示す英詩作品を見てみたい。詩のタイトルはまさに『語順(Word Order)』。イギリス前衛詩を代表するJ・H・プリンの作品だ。一節を引用してみよう。

As you knew why / you took me for / just as well you knew

まるで並べ替え問題の選択肢そのままのような一節だ。だが、これはまぎれもなく詩の一部なのである。「この順番はこうでなくてはならない」という必然性がここにはある。30年前にこの詩と出会って、私は経験したことのない興奮を覚えた。論文も二、三本は書いたが、まだ十分にその魅力を語る事ができない。あらためて思う。語順、おそるべし。ふつうに文法的に正しい語順というものはある。にもかかわらずそこから逸脱する語順が、ときにとんでもない正当性を持つ。そこに起爆力が生まれる。

(英文学者)

## 青田恵之助の教育思想—とらわれからの解放をめざして—

山田直之（関西大学准教授） ISBN 978-4-86110-688-0 ¥4000

## 多様な子どもに向き合う教師たち—継承語教育・補習授業校におけるライフストーリー研究—

海尾修希子 ISBN 978-4-86110-693-4 ¥3300

## 空海に学ぶキャリアデザイン

益田勉（文教大学教授） ISBN 978-4-86110-705-4 ¥3500

## 移動する女性たち—海外の日本語教育と国際ボランティアの周辺—

平畑奈美（東洋大学教授） ISBN 978-4-86110-638-5 ¥3241

## 共同体による自己形成—教育と政治のプラクティスム—

生澤繁樹（名古屋大学准教授） ISBN 978-4-86110-641-5 ¥5500

## 主権者教育論—学校カリキュラム・学力・教師—

渡部竜也（東京学芸大学准教授） ISBN 978-4-86110-648-4 二刷 ¥4500

## 「エビデンスに基づく教育」の意義を探る—教育学における規範と事実をめぐって—

杉田浩崇・熊井将太編 ISBN 978-4-86110-658-3 電子版のみ ¥3700

The Developmental Process of Japanese Elementary School Teachers Associated with Teaching English while Engaged in Lesson Study 上原明子 ISBN 978-4-86110-634-7 ¥5900

## 教育と他者—非対称性の倫理に向けて—

橋本憲幸（山梨県立大学准教授） ISBN 978-4-86110-614-9 電子版のみ ¥4000

## アメリカ人の生活と学校カリキュラム—生活に根差した学校に向けての次のステップ—

ラック著／渡部竜也他訳 ISBN 978-4-86110-602-6 ¥6000

## 大学英語教育の質的転換—「学び」場から「使う」場へ—

佐藤響子・Carl McGary・加藤千博編 ISBN 978-4-86110-618-7 ¥2300

## 歴史的思考—その不自然な行爲—

サム・ワインバーグ著／渡部竜也監訳 ISBN 978-4-86110-555-5 二刷 ¥5100

## 世界初市民性教育の国家規模カリキュラム

渡部竜也編訳 ISBN 978-4-86110-490-9 ¥4722

## 真正の学び／学力—質の高い知をめぐる学校再建—

フレッド・M・ニューマン著／渡部竜也・堀田諭訳 電子版のみ ISBN 978-4-86110-525-8 ¥6200

## 「モンクグッド」のための歴史教育—社会的文化的アプローチ—

レヴズステイク、バートン著／渡部竜也他訳 ISBN 978-4-86110-445-9 二刷 ¥6000

言葉への道—障害の重い人たちの事例研究集 遠藤司（駒澤大学教授） ISBN 978-4-86110-573-9 ¥2800

## 観光・環境・自然

突撃！よこはま村の1000人—自転車記者が行く— 佐藤将人（神奈川新聞記者） ISBN 978-4-86110-316-2 ¥1500

瀬戸内、鳥獣の旅—風景の奥を読む— 伊藤松雄（四国学院大学教授） ISBN 978-4-86110-360-5 ¥1800

おはあちゃん！豚となつて木に登る 外川洋子 ISBN 978-4-86110-398-8 ¥1500

富士山学への招待—NPOが富士山と地域を救う— 渡辺豊博（都留文科大専任教諭） ISBN 978-4-86110-229-5 ¥1500

失敗しないNPO—クラウドワーク三島の20年とイギリスに学ぶ— 渡辺豊博（都留文科大専任教諭）編著 ISBN 978-4-86110-353-7 ¥1500

英和の森の植物たち—感じる、遊ぶ、食べる— 中池敏之・川崎末美（東洋英和女学院大学教授） ISBN 978-4-86110-321-6 ¥2600



# 学問としてのダンスの歴史の変容

ウィスコンシン大学

マディソン校のダンスの二〇〇年

木場裕紀 (東京電機大学准教授)

二〇世紀のアメリカの高等教育におけるダンスの動向を、世界初の専攻を設立した大学の事例から検証。身体教育と芸術の二つの顔を持つ「学問としてのダンス」の特質を捉え、社会的・政治的要因をもとに、ダンス及び身体知と大学組織の関係を究明する。  
A5判上製・三〇頁 定価(4000円+税)  
ISBN 978-4-86110-757-3



## 教育方法改革の理論

助川見洋 (国士館大学教授)

ISBN 978-4-86110-578-4 ¥2000

子どもの「内面」とは何か―言語ゲームから見た他者理解とコミュニケーション 杉田浩崇 (広島大学准教授) ISBN 978-4-86110-556-2 ¥2700

絵本から「子ども福祉」を考える

青木文美 (愛知淑徳大学准教授) 編

ISBN 978-4-86110-514-2 ¥2400

現代の学校を読み解く―学校の現在地と教育の未来 末松裕基 (東京学芸大学准教授) 編著

ISBN 978-4-86110-504-3 二刷 ¥2300

居場所―生の回復と充溢のトボス

秋原建次郎 (駒澤大学教授)

ISBN 978-4-86110-566-1 電子版のみ ¥2315

留学生の見た漢字の世界―漢字学習への創造的アプローチ 林さとし・関麻由美・齋藤伸子 編著 ISBN 978-4-86110-568-5 ¥1852

人生の調律師たち―動的ドラマトゥルギーの展開 藤川信夫 (大阪大学教授) 編著

ISBN 978-4-86110-540-1 ¥4500

## 教育実践の昭和

横須賀薫 (元十文字学園女子大学学長)

ISBN 978-4-86110-512-8 ¥2000

キリスト教人格教育論―個人の尊厳を見つめて 吉岡良昌 (元東洋英和女学院大学教授)

ISBN 978-4-86110-417-6 ¥2300

いのちを育む教育学 吉岡良昌 (東洋英和女学院大学名誉教授)・大川洋 (国際基督教大学教授)

ISBN 978-4-86110-143-4 ¥2200

アメリカ教育福祉社会史序説―ビジタリング・ティーチャーとその時代 倉石一郎 (京都大学教授) ISBN 978-4-86110-416-9 二刷 ¥3000

物語が始まるとき―共創教育の現場から 青木幸子 (昭和女子大学准教授) ISBN 978-4-86110-415-2 ¥1800

ワークシートで学ぶ 生徒指導・進路指導の理論と方法 林尚示・服部伴文・村木晃 ISBN 978-4-86110-355-1 ¥2000

労働声・山崎高哉 共編 日中教育学対話Ⅱ ISBN 978-4-86110-159-5 ¥2200 日中教育学対話Ⅲ ISBN 978-4-86110-220-2 ¥2800 日中教育学対話Ⅳ ISBN 978-4-86110-248-6 ¥2200

幼児キャンプ―雪の体験 山梨幼児野外教育研究会 監修 ISBN 4-921146-40-3 ¥1905



## ともに生きるために

ウエルフェア・リングイステイクスと生態学の視点からみることばの教育

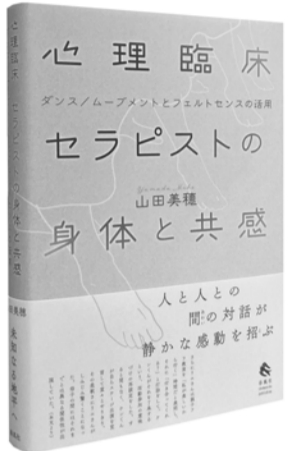
尾辻恵美 (シドニー工科大学准教授)・熊谷由理 (ミニスオタ大学上級講師)・佐藤慎司 (ワシントン大学上級講師) 編

ことばの教育は何をめざすのか? 人、ことば、社会・環境を相互に連関する資源と捉える「言語生態学」の視座から、個人と社会をより豊かに (wellfare) する営みとしての、ことばの教育を考える。  
A5判並製・三〇四頁 定価(3900円+税) ISBN 978-4-86110-774-0

## 心理臨床 セラピストの身体と共感

ダンス/ムーブメントとフェルトセンスの活用 山田美穂 (お茶の水女子大学准教授)

人と人との間の対話が静かな感動を招ぶ。身体が感じ、身体を感じ、身体が動き、身体を動かす、身体と身体のかかわりを通じ、心理臨床の実践と豊かな理解に向けた真摯な問い。  
A5判上製・四二六頁 定価(4500円+税) ISBN 978-4-86110-770-2



小学校英語「児童文学を―絵本・ナースィーラ イム・ストーリーテリングの世界に遊ぶ 吉田真理子・佐藤佳子 執行智子 ISBN 978-4-86110-733-7 ¥2000

英米人名語源小辞典 エリック・パートリッジ著 吉見昭徳 明治学院大学名誉教授 編訳 ISBN 978-4-86110-673-6 ¥3000

日本語学習者の読解ストラテジー―要点関係図の効果を探る 田川麻央 (明海大学講師) ISBN 978-4-86110-707-8 ¥4400

おしゃべりなホライトネス―会話の中の共話・話題交換・笑い・メタファー 笹川洋子 (神戸親和女子大学教授) ISBN 978-4-86110-642-2 ¥3500

神奈川県方言アクセント―小田原から横須賀まで 坂本薫 (國學院大学兼任講師) ISBN 978-4-86110-670-5 ¥3700

Japanese English: A Descriptive Grammar Kolawole Waziri Olatoyegba (都留文科大学教授) ISBN 978-4-86110-680-4 ¥6900

小学校英語への専門的アプローチ―ことばの世界を拓く 綾部保志 (立教池袋中学校・高等学校教諭) 編 ISBN 978-4-86110-647-7 ¥2000

ウエルフェアの歴史 ジャネット・デイヴィス著 小池剛史 (天東文化大学准教授) 訳 ISBN 978-4-86110-608-8 ¥2700

視覚スキーマを用いた意味拡張動機づけの分析 栗田奈美 (恵泉女子大学准教授) ISBN 978-4-86110-564-7 ¥5500

英語と開発―グローバル化時代の言語政策と教育 F・サージェント・E・J・アーリング 編 松原好次 監訳 ISBN 978-4-86110-471-8 ¥3500

英語学―現代英語をより深く知るために 菊池清明 (元立教大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-513-5 ¥1400

第二言語習得と個別性 津田塾大学言語文化研究所言語習得の個別性研究グループ 編 ISBN 978-4-86110-065-9 ¥1600

Reflections on Chomsky's Strong Minimalist Thesis 鈴木憲夫 (元神戸親和女子大学教授) ISBN 978-4-86110-114-4 ¥7619

Reflections on Chomsky's Strong Minimalist Thesis II 鈴木憲夫 (元神戸親和女子大学教授) ISBN 978-4-86110-300-1 ¥6667

ジョンソンと「国語」辞典の誕生―十八世紀巨人の名言・金言 早川勇 (愛知大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-399-5 ¥2500

ヘルベル語とティフィナク文字の基礎―タリー・フィート語 (Talee) 入門 石原忠佳 ISBN 978-4-86110-394-0 電子版のみ ¥4286

啓蒙思想下のジョンソン辞書―知の集成を目指して 早川勇 (愛知大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-380-3 ¥5000

デイケアの心理学 浮田徹嗣 (横浜国立大学准教授) ISBN 978-4-86110-306-3 ¥3000

Experimental Studies on Prosodic Features in Second Language Acquisition 伊庭緑 (甲南大学教授) ISBN 978-4-86110-235-6 ¥6600

英単語のいぢ 早川勇 (愛知大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-217-2 1800

はじめの論文―語用論的な視点で調査・研究する 田中典子 (清泉女子大学教授) ISBN 4-86110-349-0 三刷 ¥1800

フレクティブクス・ワークシンプン―身まわりの言葉を語用論的に見る 田中典子 (清泉女子大学教授) ISBN 4-86110-073-9 四刷 ¥1800

環境心理学―環境デザインへのベース・ベティ 植光 (実践女子大学教授) ISBN 4-86110-010-0 二刷 電子版のみ ¥2286

一として人びとの行動様式に大きな影響をおよぼしている。ちなみに、そうしたICTによって嚮導されたメディアは、いまや人流の減少と感染率の低下を壊れたレコードのように繰り返している。

この間、わたしたちの目の前で繰り返されてきたワクチン狂騒劇において決定的な役割を果たしてきたのはこのICTである。それにささえられて、「ワクチン・検査パッケージ」や接種証明がウイズ・コロナの命運を決するものとして、ある種の既視感をもって語られるようになっていく。気がついたら、わたしたちは予防と緊密にリンクした規律化のシステムの中になんかしっかり埋め込まれているのである。厄介なことに、この規律化のシステムは過剰なまでに倫理的であり、人びとにたいして感染することを罪悪感として認識させるとともに、感染者には暴力的な差別を強いている。いずれにせよ、感染すること(者)と感染しないこと(者)との裂け目がぼっかりと口をあけているコロナ禍の風景のなかを、わたしたちは生きているのだ。

こうしてみると、明らかにウイズ・コロナはコ・プレゼンスの基層を掘り崩しているといえる。だから、ウイズ・コロナの向こう側に『「コネクティッドなもの』の台頭、そしてそれとむすびついた「シェアリング(共有)と協働の進展」がみられるなどと、とても気恥ずかしくていえないのだが、現にソーシャル・ディスタンスとステイホームのはざまから、そうした動きが立ちあらわれているのも事実である。(社会学者)



# co-presence の時代へ 吉原直樹

### 5/コ・プレゼンスを掘り崩すウイズ・コロナ

新型コロナウイルスのパンデミックを向こうにして、ソーシャル・ディスタンスとステイホームという言葉が一人歩きしている。厳密にいうと、それらはフィジカル・ディスタンスであり、それにもとづく生活様式のことをさしている。しかし皮肉なことに、誤った使用によって見えないものがかえって見えるようになっていく。実際、それらを通底する権力的作用がいまや社会の前景に立ちあらわれているのが、境界線をこえる身体を管理し操作するICTである。それは人びとの移動を阻止し、感染を回避するテクノロジー

# 社会・歴史・政治



**ファッションとテクノロジー**  
英国ヴィクトリア朝ミドルクラスの  
衣生活の変容

**長谷部寿女士** (日本女子大学等非常勤講師)  
工業化を遂げた一九世紀英国におけるテクノロジーの影響を、ミドルクラスの女性のファッションに見出し、着飾る行為への思考と実践の変容を論じる。  
A5判上製・三八六頁 定価(4500円+税)  
ISBN 978-4-86110-762-7



**アートとコミュニティ**

横浜・黄金町の実践から

**山野真悟・鈴木伸治** (横浜市立大学教授)

横浜の創造都市政策や福岡のミュージアム・シティ・プロジェクト、そして横浜・黄金町での実践の記録を回顧しつつ、文化政策と都市政策の視点からアートとコミュニティの関係性を展望する。  
A5判並製・三四頁 定価(3000円+税)  
ISBN 978-4-86110-752-8



**老年笑い学**

ユーモアで羽ばたくシニア

**小向敦子** (高千穂大学教授)  
綺麗事だけではないシニア期だからこそ、笑ってもらおう！笑ってあげよう！老・病・死をもユーモアで飾れ！「笑い学」のメリットを見逃すな！  
四六判並製・二七六頁 定価(2400円+税)  
ISBN 978-4-86110-778-8



**政治学入門**

デモクラシーと国家を考える

**宮原辰夫** (文政大学教授)

古代ギリシアの歴史から二〇世紀のウェーバーまで、その思想のエッセンスを平明に解説。ヨーロッパ政治思想史の基礎を学び、現代政治の問題を考えるための新たな視点を得る。  
A5判並製・二五〇頁 定価(2200円+税)  
ISBN 978-4-86110-744-3

## ポストモダンの処方箋

28 皇室崩壊の予兆？ 白井聡

私は、2018年に上梓した『国体論一菊と星条旗』（集英社新書）にて、ひとつの予測を提起した。それは、天皇（現上皇）が思い切った行動によって発したメッセージが、日本社会によって受け入れられなければ、皇族の人々は今後自分たちに課せられた義務を果たす意欲を、果たして維持できるだろうか、それははなはだ疑問である、と。

これを書いたとき、何か具体的な想定をしていたわけではなかった。生前退位の強い意思とそれを裏づける上皇の信念に満ちた考え、そして象徴天皇制を民主主義社会のなかに適切に位置づけることによって皇統を持続させねばならないという強靱な意志を私は「お言葉」から読み取ったから、これほどの重大な覚悟と確信が伝わらなければ、それは上皇にとって強い落胆をもたらすであろうし、ゆくゆくは皇室のメンバー全員にとっても由々しき状況をもたらすであろう、と論理的に推論したまでである。

私が示唆した事態は思いがけないところから生じてきた。秋篠宮家長女・眞子さまの結婚問題である。今度の揉め事において鮮烈だったのは、眞子さまの「外

へ出たい」という意向の強さだった。実際夫婦は海外で暮らすことになるのだろうが、その人生設計には、何とんでも日本から出たい、「元皇族」としても生きたくないという思いが滲んでいる。

眞子さまの小室圭氏に寄せている思いが適切なものであるのか否かは、第三者がどう言うべき事柄ではない。大人の固い決意を誰かが変えられるものでもない。ただし、皇族の一員が死に物狂いで「皇族であること」から逃れようと試みるその動機の強さについては、十分に分析可能ではないだろうか。なぜなら、上皇による「お言葉」、そしてその後の退位と改元に至る過程での折々の発言と、それらに対する社会の反応を見較べれば、上皇の真意が伝わったとは、私には到底思えないからだ。上皇は重大な問題提起をしたのに、国民は問いを受け取らなかった。心を尽くして「国民統合の象徴とは何か」を実践し、説明してきたことが、国民に伝わらない、つまりは徒労に終わるならば、皇族に課せられている過酷な自由の制約に耐えられる者は早晩誰もいなくなるだろう。

(政治学者)

**アジアの海を渡る人々―二六・二七世紀の渡海者** 上田信 (立教大学教授・中島楽章 (九州大学准教授) 編)  
日本史料・漢籍史料・ヨーロッパ史料を総合的に検討し、紛争と外交の事例を分析することで、東アジア海域秩序の長期変動を解明。  
ISBN 978-4-86110-729-0 ¥5000

**文化的に生きる権利―文化政策研究からみた憲法第二十五条の可能性** 中村美帆 (静岡文化芸術大学准教授) 著  
文化は不急のものなのか？文化政策研究の立場から、憲法第二十五条に「文化」という語が入っていることの意味を考察。  
ISBN 978-4-86110-724-5 ¥4500

**現代民俗学考―郷土研究から世界常民学へ** 佐野賢治 (神奈川大学名誉教授) 編著  
現代民俗、仏教民俗、民具・博物館・文化創生、比較・国際常民文化の四分野四二編から成る、佐野賢治教授の古稀・神奈川大学退職記念論集。  
ISBN 978-4-86110-708-5 ¥13000

**制服ガールの総力戦―イギリスの「女の子」の戦時責務** 杉村使乃 (共立女子大学教授) 著  
女性は戦争にどのように関わったのか？第二次世界大戦時の制服姿の女性を通して、「女性活躍」の表象を読み解く。  
ISBN 978-4-86110-603-3 ¥3200

**社会的システム理論の軌跡―ソシオサイバネティクスとニクラス・ルーマン** 赤堀三郎 (東京女子大学教授) ISBN 978-4-86110-720-7 ¥3600

**現場に立つから、おもしろい世界をつなぐ** ひと・モノ・しくみ 江戸川大学現代社会学科 監修 ISBN 978-4-86110-740-5 ¥1800

**ナショナリズムの空間―イスラエルにおける死者の記念と表象** 今野泰三 (中京大学准教授) ISBN 978-4-86110-722-1 ¥3600

**ランデル駅―ブラジル最大の刑務所における囚人たちの生態** ドラウジオヴァレラ著 / 伊藤秋仁訳 ISBN 978-4-86110-695-8 ¥3600

**現代中東における宗教・メディア・ネットワーク―イスラームのゆくえ** 千葉悠志・安田慎編 ISBN 978-4-86110-728-3 ¥2800

**合法性と正当性** デイヴィッド・ダイゼンハウス著 / 池端忠司 (神奈川大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-686-6 ¥4100

**東アジアの弾圧・抑圧を考える―19世紀から現代まで** 日本・中国・台湾 岩下哲典 (東洋大学教授) 他 ISBN 978-4-86110-669-9 ¥4000

**開発と文化における民衆参加―タンザニアの発展の条件** 阪本公美子 (宇都宮大学教授) ISBN 978-4-86110-676-7 ¥4500

**江戸の名主 馬込勘解由** 高山慶子 (宇都宮大学准教授) ISBN 978-4-86110-666-8 ¥4100

**On the Road to the East Asian Community** 奥田孝晴 (立教大学教授) 他編 ISBN 978-4-86110-655-2 ¥6000

**反逆者たちのアメリカ文化史―未来への思考** 堀真理子 (青山学院大学教授) ISBN 978-4-86110-659-0 ¥2700

**統計は力なり―エルンスト・エンゲルの希望の学** 太田和宏 (北海学園大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-656-9 ¥3700

**ムガル建築の魅力―皇帝たちが築いた地上の楽園** 宮原辰夫 (文政大学教授) ISBN 978-4-86110-660-6 ¥3100

東洋英和女学院大学  
社会科学叢書

- メディアとしての「コミュニティ」  
町田小織 (東洋英和女学院大学講師) 編  
ISBN 978-4-86110-739-9 ¥2500
- 国際協力の行方—経済・開発・オルタナティブ  
吉川健治 (東洋英和女学院大学教授) 編  
ISBN 978-4-86110-646-0 ¥2500
- ハワイ・トラウマに対する短期心理療法  
岡本浩一・長谷川明弘 編  
ISBN 978-4-86110-639-2 ¥2500
- 世界のメディア—グローバル時代における多  
様性 小寺敦之 (東洋英和女学院大学准教授) 編  
ISBN 978-4-86110-591-3 ¥2500
- アジアの国際関係—移行期の地域秩序  
福田保 (東洋英和女学院大学教授) 編  
ISBN 978-4-86110-590-6 ¥2500
- 新時代のやさしいトラウマ治療  
岡本浩一・角藤比呂志 編  
ISBN 978-4-86110-545-6 ¥2500
- EU統合を読む—現代ヨーロッパを理解する  
ための基礎 小久保康之 編  
ISBN 978-4-86110-483-1 ¥2500
- ネット空間を変えるモバイル社会 東洋英和  
女学院大学メディア・コミュニケーション研  
究所 編 ISBN 978-4-86110-444-2 ¥2500
- グローバル化とリスク社会  
岡本浩一・パトリシア・スイツベル 編  
ISBN 978-4-86110-403-9 ¥2500

横浜市立大学新叢書



- Y専の歴史—横浜市立大学の源流  
齊藤敦憲 (横浜市立大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-716-0 ¥2500
- Y専の歴史—マルコ・哲學  
三上真司 (横浜市立大学教授)  
ISBN 978-4-86110-679-8 ¥3355
- 教育公務員特例法制定過程の研究—占領下  
における教員身分保障制度改革構想 高橋寛人  
(横浜市立大学教授) ISBN 978-4-86110-650-7 ¥3000
- 韓国の財政と地方財政  
鞠重鎬 (横浜市立大学教授)  
ISBN 978-4-86110-460-2 ¥3000
- 日中間戦争と中国人文学者—郁達夫、柯靈、  
陸蠡らめぐって 鈴木正夫 (横浜市立大学名誉  
教授) ISBN 978-4-86110-411-4 ¥3350
- 過去の再演を越えて—精神的分析的ロール・プ  
レイニング 川幡政道 (横浜市立大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-374-2 ¥3000
- 読んで楽しむイギリス文学入門  
白井義昭 (横浜市立大学名誉教授、立正大学教授)  
ISBN 978-4-86110-372-8 五刷 ¥1500

立教大学人文叢書

- 1 人文資料学の現在—  
浦野隆他 編著  
ISBN 4-86110-063-1 ¥2200
- 2 文学の基礎—  
後藤和彦 編著  
ISBN 4-86110-087-9 ¥2200
- 3 肖像と個性  
藤巻明他 編著  
ISBN 978-4-86110-138-0 ¥2200
- 4 人文資料学の現在Ⅱ  
菅谷憲典 編  
ISBN 978-4-86110-163-2 ¥2200
- 5 書簡を読む  
桑瀬章二郎 編  
ISBN 978-4-86110-194-6 ¥2200
- 古代文字史料の中心性と周縁性 立教大学東  
アジア地域環境問題研究所／深津行徳・浦野  
聡 編著 ISBN 4-86110-067-4 ¥3500

自著を語る

須川渡

『戦後日本のコミュニティ・シアター  
——特別でない「私たち」の演劇』



演劇との出会いは高校時代。引っ込み思案な性格を直した  
いのとユニークな授業内容に惹かれ、兵庫県立宝塚北高校演  
劇科に入学しました。そこでご指導されていたのが、本書第  
3部でその作品を論じた秋浜悟史先生です。卒業公演では、  
私の書いた『語やびら島唄』を上演することに。最初の読み  
合わせで、秋浜先生から「台本の良さっていうのは、どうし  
ようもない素朴さかなあ。こんなの僕には書けないや」と褒  
めていただいた時は本当に嬉しかった。劇中歌を作る際に、  
「歌詞を書く時に『心』って言葉はよく出てくるからやめた  
ほうがいいよ」等、先生の一言一言はとても印象的でした。  
本書の校正中も、かつて先生に「言葉をもっと吟味しないと  
いけないね」と言われたことを思い出したりして。

この時の卒業作品が沖縄を題材にしたものだったため、地  
域と演劇の関係に興味を覚えたのが今の研究に繋がってい  
ます。研究内容としては、戦後日本の都市部ではない場所で演  
劇実践がどのように行われていたかを調査しています。修  
士1年の時に、岩手県・西和賀の劇団ぶどう座主宰の川村光  
夫さんにお話をうかがいました。よく知らない若者が突然来  
たにもかかわらず、1日6時間×2日間、たっぷりお話しして  
くださって。そのインタビューは本書にも収録しています。書  
籍化にあたっては、2012年から始まった西和賀の学生演劇合  
宿事業について補綴できたことがよかったです。この事業に  
よって若い人がやってくるようになってから、土地の空気が  
ガラッと変化しました。ただ、戦後の演劇実践について語れ  
る人が少なくなってきている焦りは感じます。特にコロナ禍  
で公演ができないなか証言できる人が亡くなられている場合  
もあるので、時間との闘いですね。

研究をしていて、歴史を解き明かす資料に出会えた時には  
つい涙腺が緩んでしまうことも。本書でも扱った、川村さん  
が各演劇人と交わされた書簡もそうですし、第2部の円形劇  
場研究では調べる楽しさを知ることができました。

本書は、地域で演劇をしている人も楽しめる内容ですし、  
「演劇研究」にはこういう研究もあると知ってもらえれば。  
演劇って、文化祭や学芸会、習い事や市民ミュージカルなど、  
多くの人が関わっているけど、じゃあ実際に演劇ってなん  
ですか？ と改めて聞かれた時に、そういうものはなかなか  
入ってこない。でもそれも演劇だと思うんです。その現状  
が変わって、演劇の在り様はもっと豊かだと伝えればいいで  
すね。  
(7頁に本の紹介)

基礎的自治体と町内会自治会—「行政協力制度  
の歴史・現状・行方」日高昭夫(山梨学院大学特任  
教授) ISBN 978-4-86110-611-8 電子版のみ ¥4200

寛容な社会—アメリカ合衆国における言論の  
自由と過激派の言論 リー・C・ボリンジャー  
著/池端由司訳 ISBN 978-4-86110-593-7 ¥3900

食から描くインド—近代の社会とアイテ  
ンティティ 井坂理穂(東京大学教授・山根聡) 大  
阪大学教授 編 ISBN 978-4-86110-633-0 二刷 ¥3700

難民支援—ドイツメディアが伝えたこと 松  
原好次(元電気通信大学教授・内藤裕子(翻訳者)  
ISBN 978-4-86110-607-1 ¥2700

社会学批判と現代—早瀬利雄の人と学問  
内藤辰美(山形大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-561-6 ¥3900

海と陸の織りなす世界史—港市と内陸社会  
弘末雅士(立教大学名誉教授、東洋文庫研究員) 編  
ISBN 978-4-86110-592-0 ¥3000

エネルギーと地方財政の社会学—旧産地と  
原子力関連自治体の分析 湯浅陽一(関東学院  
大学教授) ISBN 978-4-86110-586-9 ¥3700

東アジアの秩序を考える—歴史・経済・言語  
岩下哲典(東洋大学教授) 他  
ISBN 978-4-86110-574-6 ¥3700

当事者が支援する—薬物依存からの回復 タ  
ルクの日々パート2 南保輔・中村英代・相  
良翔 編 ISBN 978-4-86110-584-5 ¥2000

戦後小樽の軌跡—地方都市の衰退と再生  
内藤辰美・佐久間美穂(川村学園女子大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-526-5 ¥3800

北の商都「小樽」の近代—ある都市の伝記  
内藤辰美(山形大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-450-3 ¥3900

都市の遺産とまちづくり—アジア大都市の歴  
史保全 鈴木伸治(横浜市立大学教授) 編  
ISBN 978-4-86110-560-9 ¥3200

新版 学問の暴力—アイヌ墓地はなぜあはかれ  
たか 植木哲也(苫小牧駒澤大学教授)  
ISBN 978-4-86110-531-9 ¥2400

「フォーク」からの転回—文化批判と領域史  
小長谷英代(早稲田大学教授)  
ISBN 978-4-86110-535-7 ¥4300

医療制度改革の比較政治  
石垣千秋(山梨県立大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-534-0 ¥5400

国際コミュニケーションの政治学  
本多周爾(武蔵野学院大学教授)  
ISBN 978-4-86110-524-4 ¥3000

ミットフォードと積尊—イギリス人外交官の  
見た理想郷日本 A・B・ミットフォード著/  
大西俊男訳 ISBN 978-4-86110-524-1 ¥3200

都市近隣組織の発展過程—コミュニティカハ  
ナンスの日本比較論 大内田鶴子(元江戸川大  
学教授) ISBN 978-4-86110-527-2 ¥5000

東亞連盟運動と石原莞爾  
内村琢也(研究者)  
ISBN 978-4-86110-522-7 ¥5000

素描・杉原千敏  
小谷野裕子(エッセイスト)  
ISBN 978-4-86110-528-9 二刷 ¥1800

天馬山—北朝鮮からの引揚げ者の語り  
浅井重紀子(桜美林大学教授) 編著  
ISBN 978-4-86110-519-7 ¥2200

歴史教科書とナショナリズム—日本とドイツ  
原口健治(青山学院大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-506-7 ¥2700

宝は田から—しあわせの農村民俗誌 山形  
県米沢 佐野賢治(神奈川大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-507-4 ¥3500

先生、NPOって儲かりますか？—若者たち  
が地元で賢く生きる方法 渡辺豊博(都留文科  
大学特任教授) ISBN 978-4-86110-480-0 ¥1389

今、田村明を読む—田村明著作選集  
鈴木伸治(横浜市立大学教授) 編  
ISBN 978-4-86110-508-1 二刷 ¥2000

ケニアへかけた虹の橋—30年の国際ボランティア  
活動 NPO法人「少年ケニヤの友」 編  
ISBN 978-4-86110-485-5 ¥1833

ホストセリングを知っていますか？—日本の  
子と向けてレクシCMの実態 山下玲子、藤  
井達也 ISBN 978-4-86110-435-0 ¥3000

婚姻連帯論と社会学—レヴィストロース、  
デュルケムをめぐって 門口充徳(成蹊大学名誉  
教授) ISBN 978-4-86110-423-7 ¥4900

ペリーと黒船祭—日米文化外交史  
佐伯千鶴(立命館大学教授)  
ISBN 978-4-86110-425-1 ¥2200

難の誕生—難節供に込められた対の豊穡  
皆川美恵子(十文字学園女子大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-439-8 ¥3800

スイスの歴史ガイド  
グレッゴワール・ナッペイ著/藤野成爾訳  
ISBN 978-4-86110-413-8 ¥1800

不思議フランス 魅惑の謎  
藤野敦子(京都産業大学教授)  
ISBN 978-4-86110-401-5 二刷 ¥1800

保守のピント  
中島岳志(東京工業大学教授)  
ISBN 978-4-86110-227-1 ¥1800

変容する冷戦後の世界—ヨーロッパのレハ  
ル・テモクラシー 永松雄彦・萬田悦生 編  
ISBN 978-4-86110-224-0 ¥2381

日系アメリカ人強制収容とジャーナリズム—  
リベラル派雑誌と日本語新聞の第二次世界大戦  
水野剛也 ISBN 4-86110-038-0 ¥4600

1920年代の日本と国際関係—混沌を越  
えて「新しい秩序」へ 杉田米行(神戸女子短  
期大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-262-2 ¥2500

ネットワーク社会と空間のポリテクス—都  
市・モダニティ・グローバル化—大澤  
善信 ISBN 978-4-86110-202-8 ¥2800

インテラントの地名—起源と歴史を訪ねて  
K・キヤメロン著/吉見昭徳(明治学院大学名誉  
教授) 訳 ISBN 978-4-86110-290-5 ¥4286

表象のフエネツィア—詩と美と悪魔  
鳥越輝昭(神奈川大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-329-2 ¥2800

グローバル化と市民権、都市—ヘタシ  
スの社会学 岩永真治(明治学院大学教授)  
ISBN 978-4-86110-140-3 二刷 ¥3333

ヒトから人へ—一人前、人の民俗学  
佐野賢治(神奈川大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-281-3 ¥2381

物権法概説  
小泉健(ノースアジア大学学長)  
ISBN 978-4-86110-221-9 ¥2800

かの冬、そして秋—僕の朝鮮戦争  
柳宗鎬著/白燦訳/太田孝子(日本語校員)  
ISBN 978-4-86110-256-1 ¥2800

保生大帝—台北大龍峒保安宮の世界  
尾崎保子(元昭和女子大学教授)  
ISBN 978-4-86110-105-2 ¥2800

牡牛と信号—《物語》としてのネパール  
山本真弓/序・佐々木幹郎(詩人)  
ISBN 4-921146-60-8 ¥2200

日中比較産業史—取引慣行と制度に見る戦前  
期日中経済の特質 四方田雅史(静岡文化芸術  
大学教授) ISBN 978-4-86110-486-2 ¥3700



東アジアにおける南島研究

南島史学会創立50周年記念論集 南島史学会編 沖縄を中心に東・東南アジア諸地域の歴史・民俗・人類・考古学等を研究する南島史学会の創立50周年記念論集。論考11篇を収録。四六判上製・三〇頁 定価(5900円+税) ISBN 978-4-86110-742-9

途上目的地—スロバニア・サンティアゴ徒歩巡礼路 旅の民族誌 土井清美(中央学院大学講師) ISBN 978-4-86110-466-4 電子版のみ ¥4000

▼現代中東政治学 末近浩太・ラズキン・カレルツの1970年代における労働者の学習 富永貴公▼21世紀スキルとしての情報社会学 天野徹▼現代日本農業論考 小川真如▼エッセイ風都市社会学 吉瀬雄一▼都市を眺る 浅川達人▼韓国の地方民家 佐々木史郎▼コーポレート・ステークホルダー 豊田聡▼ストリップ73年史 西条昇▼フランス魅惑と不安 北垣徹▼パリアニエギニアの華人 市川哲▼アフリカ研究と文化人類学 関谷雄一▼身体時間的人类学 板垣明美▼「私らしさ」の民族誌 鳥山純子▼妖怪文化の現代的活用に関する研究 市川寛也▼日系インドネシア人のエスノグラフィ 伊藤雅俊▼タトゥー人類学 山本芳美▼一九世紀末に活躍した日本人彫師たち 山本芳美▼越境兵士 上杉妙子▼石敢當の比較研究 蔣明超▼聖ヤコブ崇拝とサンティアゴ巡礼の歴史の展開 井上幸孝▼ノール・ルール! 吉田文久▼人魚表象をめぐって 中丸禎子▼長床と神社研究 白井正子▼利害関係者が形作る寺院管理 田中鉄也▼韓国経済史 須川英徳他訳▼「リスト全集」の出版 諸田實▼フォビアがいつぱい 高山陽子他▼女子サッカー選手の世界 申恩真▼書きかえる女たち 竹山友子▼嗜好品の文化人類学 大坪玲子他編

愛と共生のイスラーム—現代エチオピアのスーフィズムと聖者崇拝

石原美奈子(南山大学教員) ISBN 978-4-86110-730-6 ¥3000

▼「ヒトノナカニ」イノチアル、/コノイノチワ ニンゲンノヒカリ。/コノヒカリワ クラサノナカニカガヤク。/だから、カシコイモノヨ、教えてくださ。/どうやって祈るかを、ゴクラクをもたないものに。」と、ギュツラフ訳聖書の言葉を引きながら長田弘が言う。言葉なんかおぼえるんじゃないかなった/言葉のない世界/意味が意味にならない世界に生きてたら/どんなによかったか」と、田村隆一が言う。「からだ」の問題に手をつけることは、地獄のカマのフタを開けるようなものだ」と、演出家・竹内敏晴が言う。「田植えのの一つも、できにゃくせに」と、大学に入り、覚えたての言葉を目で見て話す私に向かい、父が言う。言葉を前に佇立する。言葉を知り、言葉を楽しむ、しかし言葉に縛られず、言葉を超え出たい。言葉でイノチの無限にふられるか? 言葉ってなんだ? (三)

エチオピア帝国再編と反乱(ワヤネ)

農民による帝国支配への挑戦 真城百華(上智大学准教授) ISBN 978-4-86110-721-4 ¥2000

▼「エチオピア」の旗 関根裕子▼十七の公共圏 藤岡由未訳▼近代市民社会の信仰と音楽 瀬尾文子▼日本におけるベル・カントの父 アドルフ・フォン・シャットナー 直江学美▼レオナルド・ダ・ヴィンチ研究 田辺清▼益哉 川崎仁美▼暮らした日本語(スペイン語版) 長谷川哲子▼暗記嫌いのためのロジカル英語入門 佐藤美弥子▼言語教師教育論 南浦涼介他訳▼言語景観から考える日本の言語環境 タニエル・ロンク他著▼記憶のなかの「碧南方言」 石川文也▼留学のための異文化トレーニング 勝又恵理子▼認知言語学・用法基盤モデルから考える 橋本ゆかり▼学校づくり 石井拓児▼自律のための教育学 大川洋▼難刀と学校教育 井上アヤ子▼健康自然塾 川村協平▼インターフェイス・スピリチュアルケア 小西達也▼教育の理念・歴史・思想 藤井基寛 中村美智太郎編著▼大学の理念 豊崎光衛訳▼ジョン・デューイ教育思想の再解釈 生澤繁樹▼哲学教育論 生澤繁樹▼教育人間学の再検討 宮嶋秀光▼アーベルの討論倫理学に関する教育学的研究 丸橋静香▼学校と生活を接続する 田中怜▼レヴィナスと教育学 安嶋勇平▼ミッドフォードとギネス一族の御曹司 大西俊男訳▼自立を目指す教育とは何か 宮川幸奈▼一般科学教授学綱要 牛田伸一訳▼すべての子どもたちを市民に 渡部竜也他訳▼日本語教師の省察的実践 香月裕介▼社会教育における生活記録の系譜 新井浩子▼戦前期日本における精神衛生相談の諸相 末田邦子

インド・剥き出しの世界

田中雅一(国際ファッション専門職大学教授)・石井美保(京都大学准教授) ISBN 978-4-86110-709-2 ¥3600

▼「エチオピア」の旗 関根裕子▼十七の公共圏 藤岡由未訳▼近代市民社会の信仰と音楽 瀬尾文子▼日本におけるベル・カントの父 アドルフ・フォン・シャットナー 直江学美▼レオナルド・ダ・ヴィンチ研究 田辺清▼益哉 川崎仁美▼暮らした日本語(スペイン語版) 長谷川哲子▼暗記嫌いのためのロジカル英語入門 佐藤美弥子▼言語教師教育論 南浦涼介他訳▼言語景観から考える日本の言語環境 タニエル・ロンク他著▼記憶のなかの「碧南方言」 石川文也▼留学のための異文化トレーニング 勝又恵理子▼認知言語学・用法基盤モデルから考える 橋本ゆかり▼学校づくり 石井拓児▼自律のための教育学 大川洋▼難刀と学校教育 井上アヤ子▼健康自然塾 川村協平▼インターフェイス・スピリチュアルケア 小西達也▼教育の理念・歴史・思想 藤井基寛 中村美智太郎編著▼大学の理念 豊崎光衛訳▼ジョン・デューイ教育思想の再解釈 生澤繁樹▼哲学教育論 生澤繁樹▼教育人間学の再検討 宮嶋秀光▼アーベルの討論倫理学に関する教育学的研究 丸橋静香▼学校と生活を接続する 田中怜▼レヴィナスと教育学 安嶋勇平▼ミッドフォードとギネス一族の御曹司 大西俊男訳▼自立を目指す教育とは何か 宮川幸奈▼一般科学教授学綱要 牛田伸一訳▼すべての子どもたちを市民に 渡部竜也他訳▼日本語教師の省察的実践 香月裕介▼社会教育における生活記録の系譜 新井浩子▼戦前期日本における精神衛生相談の諸相 末田邦子

親子とは何か—ナイジェリア・ハウス社会における「里親養育」の民族誌

梅津綾子(愛知淑徳大学他非常勤講師) ISBN 978-4-86110-700-9 ¥4300

▼「エチオピア」の旗 関根裕子▼十七の公共圏 藤岡由未訳▼近代市民社会の信仰と音楽 瀬尾文子▼日本におけるベル・カントの父 アドルフ・フォン・シャットナー 直江学美▼レオナルド・ダ・ヴィンチ研究 田辺清▼益哉 川崎仁美▼暮らした日本語(スペイン語版) 長谷川哲子▼暗記嫌いのためのロジカル英語入門 佐藤美弥子▼言語教師教育論 南浦涼介他訳▼言語景観から考える日本の言語環境 タニエル・ロンク他著▼記憶のなかの「碧南方言」 石川文也▼留学のための異文化トレーニング 勝又恵理子▼認知言語学・用法基盤モデルから考える 橋本ゆかり▼学校づくり 石井拓児▼自律のための教育学 大川洋▼難刀と学校教育 井上アヤ子▼健康自然塾 川村協平▼インターフェイス・スピリチュアルケア 小西達也▼教育の理念・歴史・思想 藤井基寛 中村美智太郎編著▼大学の理念 豊崎光衛訳▼ジョン・デューイ教育思想の再解釈 生澤繁樹▼哲学教育論 生澤繁樹▼教育人間学の再検討 宮嶋秀光▼アーベルの討論倫理学に関する教育学的研究 丸橋静香▼学校と生活を接続する 田中怜▼レヴィナスと教育学 安嶋勇平▼ミッドフォードとギネス一族の御曹司 大西俊男訳▼自立を目指す教育とは何か 宮川幸奈▼一般科学教授学綱要 牛田伸一訳▼すべての子どもたちを市民に 渡部竜也他訳▼日本語教師の省察的実践 香月裕介▼社会教育における生活記録の系譜 新井浩子▼戦前期日本における精神衛生相談の諸相 末田邦子

現代世界の呪術—文化人類学的探究

飯田卓編 ISBN 978-4-86110-691-0 電子版のみ ¥4500

▼「エチオピア」の旗 関根裕子▼十七の公共圏 藤岡由未訳▼近代市民社会の信仰と音楽 瀬尾文子▼日本におけるベル・カントの父 アドルフ・フォン・シャットナー 直江学美▼レオナルド・ダ・ヴィンチ研究 田辺清▼益哉 川崎仁美▼暮らした日本語(スペイン語版) 長谷川哲子▼暗記嫌いのためのロジカル英語入門 佐藤美弥子▼言語教師教育論 南浦涼介他訳▼言語景観から考える日本の言語環境 タニエル・ロンク他著▼記憶のなかの「碧南方言」 石川文也▼留学のための異文化トレーニング 勝又恵理子▼認知言語学・用法基盤モデルから考える 橋本ゆかり▼学校づくり 石井拓児▼自律のための教育学 大川洋▼難刀と学校教育 井上アヤ子▼健康自然塾 川村協平▼インターフェイス・スピリチュアルケア 小西達也▼教育の理念・歴史・思想 藤井基寛 中村美智太郎編著▼大学の理念 豊崎光衛訳▼ジョン・デューイ教育思想の再解釈 生澤繁樹▼哲学教育論 生澤繁樹▼教育人間学の再検討 宮嶋秀光▼アーベルの討論倫理学に関する教育学的研究 丸橋静香▼学校と生活を接続する 田中怜▼レヴィナスと教育学 安嶋勇平▼ミッドフォードとギネス一族の御曹司 大西俊男訳▼自立を目指す教育とは何か 宮川幸奈▼一般科学教授学綱要 牛田伸一訳▼すべての子どもたちを市民に 渡部竜也他訳▼日本語教師の省察的実践 香月裕介▼社会教育における生活記録の系譜 新井浩子▼戦前期日本における精神衛生相談の諸相 末田邦子

グローバリ都市を生きる人々—イラン人ディアスポラの民族誌

椋原敦子(龍谷大学准教授) ISBN 978-4-86110-599-9 ¥3700

▼「エチオピア」の旗 関根裕子▼十七の公共圏 藤岡由未訳▼近代市民社会の信仰と音楽 瀬尾文子▼日本におけるベル・カントの父 アドルフ・フォン・シャットナー 直江学美▼レオナルド・ダ・ヴィンチ研究 田辺清▼益哉 川崎仁美▼暮らした日本語(スペイン語版) 長谷川哲子▼暗記嫌いのためのロジカル英語入門 佐藤美弥子▼言語教師教育論 南浦涼介他訳▼言語景観から考える日本の言語環境 タニエル・ロンク他著▼記憶のなかの「碧南方言」 石川文也▼留学のための異文化トレーニング 勝又恵理子▼認知言語学・用法基盤モデルから考える 橋本ゆかり▼学校づくり 石井拓児▼自律のための教育学 大川洋▼難刀と学校教育 井上アヤ子▼健康自然塾 川村協平▼インターフェイス・スピリチュアルケア 小西達也▼教育の理念・歴史・思想 藤井基寛 中村美智太郎編著▼大学の理念 豊崎光衛訳▼ジョン・デューイ教育思想の再解釈 生澤繁樹▼哲学教育論 生澤繁樹▼教育人間学の再検討 宮嶋秀光▼アーベルの討論倫理学に関する教育学的研究 丸橋静香▼学校と生活を接続する 田中怜▼レヴィナスと教育学 安嶋勇平▼ミッドフォードとギネス一族の御曹司 大西俊男訳▼自立を目指す教育とは何か 宮川幸奈▼一般科学教授学綱要 牛田伸一訳▼すべての子どもたちを市民に 渡部竜也他訳▼日本語教師の省察的実践 香月裕介▼社会教育における生活記録の系譜 新井浩子▼戦前期日本における精神衛生相談の諸相 末田邦子

出版をお考えの方へ

清新なお原稿をお待ちしています。お気軽にお問い合わせください。

春風播人

「ヒトノナカニ」イノチアル、/コノイノチワ ニンゲンノヒカリ。/コノヒカリワ クラサノナカニカガヤク。/だから、カシコイモノヨ、教えてくださ。/どうやって祈るかを、ゴクラクをもたないものに。」と、ギュツラフ訳聖書の言葉を引きながら長田弘が言う。言葉なんかおぼえるんじゃないかなった/言葉のない世界/意味が意味にならない世界に生きてたら/どんなによかったか」と、田村隆一が言う。「からだ」の問題に手をつけることは、地獄のカマのフタを開けるようなものだ」と、演出家・竹内敏晴が言う。「田植えのの一つも、できにゃくせに」と、大学に入り、覚えたての言葉を目で見て話す私に向かい、父が言う。言葉を前に佇立する。言葉を知り、言葉を楽しむ、しかし言葉に縛られず、言葉を超え出たい。言葉でイノチの無限にふられるか? 言葉ってなんだ? (三)

春風新聞 第二八号 二〇二二年三月三日発行 発行者：三浦衛 発行所：春風社 印刷：シナノ書籍印刷 レイアウト：矢萩多聞